

サウンディング調査事業概要書

(新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備事業)

厚木市 企画部 行政経営課

お伺いしたい事項

- 本事業に対する関心度、民間施設の導入の可能性、本事業における望ましい事業手法等についてのご意見をお伺いいたたく存じます。

お伺いしたい質問事項	質問内容
1. 本事業へのご関心	<ul style="list-style-type: none">• 本事業への関心の有無を教えてください。• 関心がある場合、どのような立場（代表企業・構成企業・協力企業）での参画が想定されますか。
2. 望ましい事業手法及びコンセッション方式の事業化に必要な条件	<ul style="list-style-type: none">• 厚木市で展開できそうなコンテンツ、イベント等のアイデアはありますか。• 望ましい事業方式を教えてください。• コンセッション方式を成立させるために行政側で必要な検討や条件はありますか。
3. 望ましい事業範囲や周辺整備の内容	<ul style="list-style-type: none">• 離接する公園施設を事業範囲に含めることについて、ご意見をお聞かせ下さい。• 駅前や厚木中央公園等の周辺施設も含めたエリアの活性化に資する取り組みをしていく場合に必要となる条件やアイデアはありますか。【運営会社、デベロッパーのみ】• 解体工事を事業範囲に含めることについて、ご意見をお聞かせください。【建設会社のみ】
4. 業界の動向	<ul style="list-style-type: none">• 建設費について、現在どれくらいの㎡単価となっていますでしょうか。【建設会社のみ】• PFI事業のコスト縮減率を教えてください。【建設会社、維持管理会社のみ】• 運営費について、どれくらいの人員体制が望ましいでしょうか。【運営会社、維持管理会社のみ】• 維持管理費について、現在どれくらいの年間㎡単価となっていますでしょうか。【運営会社、維持管理会社のみ】
5. 事業スケジュールに対するご意見	<ul style="list-style-type: none">• 設計建設に要する期間はどれくらいですか。【建設会社のみ】• 望ましい事業期間（主に運営維持管理期間）を教えてください。
6. 本市及び本事業に対するご要望等	<ul style="list-style-type: none">• 今後、開示を求める資料、図面等の有無はありますか。• 本事業に対する懸念事項はありますか。• 予め行政側で整理が必要な事項はありますか。

1. これまでの経緯

これまでの検討経緯 | 事業対象地及び周辺施設の概要

- 厚木市役所本庁舎は、昭和46年に建設され、本市の発展を支える拠点としての役割を果たしてきました。しかし、建物の老朽化や狭あい化、分散化、災害対応力の強化など、様々な課題に対応するため、本厚木駅東口の厚木バスセンター東側にある中町第2 - 2地区に整備する複合施設の1機能として移転することになりました。
- 今後、本厚木駅周辺を中心市街地は、まちづくりの新たな局面を迎えます。現在の本庁舎敷地についても、変化する時代に対応した、新たな役割が求められています。



所在地	厚木市中町三丁目 17 番 17 号		敷地面積	8,686.19 m ²
既存建物の概要	構造	鉄筋コンクリート造	階数	地上5階 地下2階
	竣工年月	昭和46(1971)年1月	築年数	築54年(R7.7時点)
	延床面積	9,016 m ²	耐震性能	免震構造
	大規模改修履歴	免震改修(平成16(2004)年度)		
地域地区	都市計画区域	市街化区域	用途地域	商業地域
	建ぺい率/容積率	80/500	防火・準防火地域	防火地域
	その他	駐車場整備地区		
現況	築54年が経過し、建物の劣化が進行している。			
接道状況	北側	県道603号	東側	市道A-272号線
	南側	市道A-273号線	西側	市道A-271号線
周辺施設(参考)	厚木中央公園	19,416.79 m ²	公衆便所あり(58 m ²)	
	厚木中央公園地下駐車場	地下2階	収容台数500台	
	大手公園	998 m ²	公衆便所あり(10.08 m ²)	

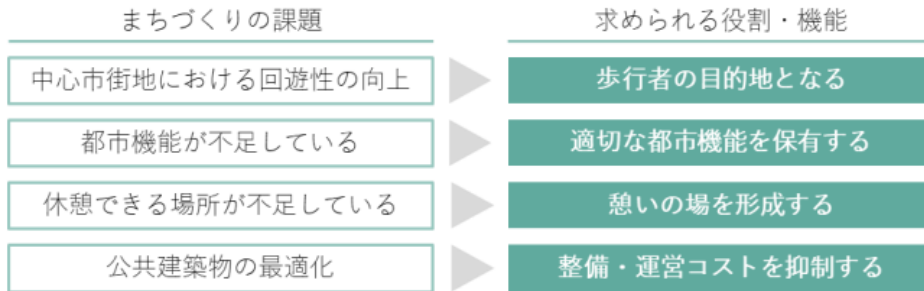
※本庁舎敷地を始め、近接する厚木中央公園や大手公園、厚木中央公園地下駐車場等との連携により、周辺エリア全体を面的に捉えた活用の方向性を定めることから、本庁舎敷地の一帯を「周辺エリア」と位置付けます。

出所：厚木市新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備基本計画策定方針より抜粋

これまでの検討経緯 | 基本方針の概要

- 本市は、本庁舎敷地の跡地活用に当たって、まちづくりの課題から求められる役割を整理し、導入する公共機能を検討しました。
- 検討の結果、本庁舎敷地の跡地には、多様な人々が集う新たな交流拠点として、以下の基本理念を有する多目的アリーナを整備する方向性を定め、令和7年3月に厚木市本庁舎敷地跡地等活用基本方針（以下、「基本方針」という。）を策定しました。

本庁舎敷地跡地に求められる役割



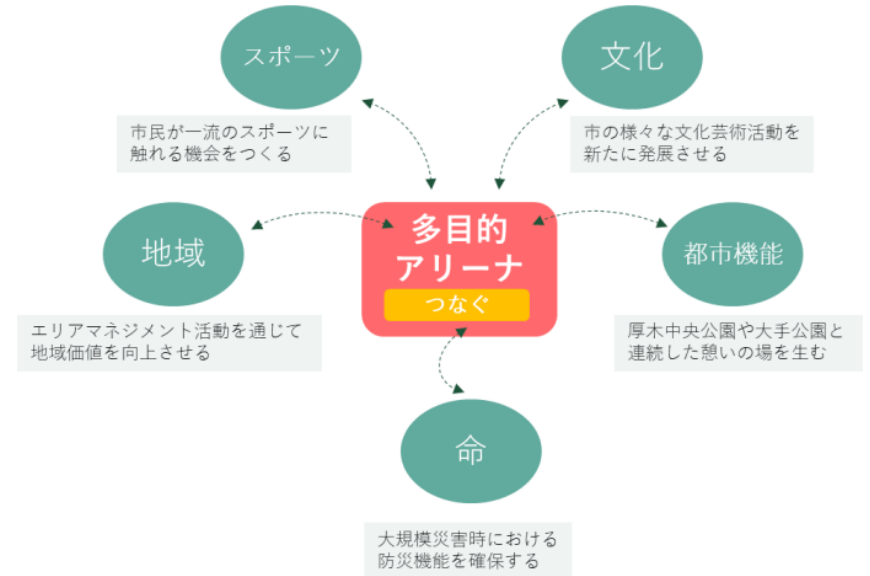
本庁舎敷地跡地に求められる役割のイメージ



- 歩行者の目的地として、中心市街地の回遊性向上に寄与
- 公園等の周辺施設との一体的な活用で、憩いの場を形成
- 使用頻度の増加、民間事業者の参画等により、市の財政負担を抑制

本庁舎敷地跡地活用の基本理念

基本理念：ヒト・モノ・コトをつなぐハブ（結節点）としての多目的アリーナ



スポーツや文化等の多種多様な活動をとおして、多様な人々が集い交流することで、周辺エリアのにぎわいや価値の向上、中心市街地の活性化を図ります。

出所：厚木市本庁舎敷地跡地等活用基本方針（新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備方針）令和7年3月・厚木市より抜粋

これまでの検討経緯 | 基本計画の位置づけ

- 本市は、基本方針の内容を踏まえ、多目的アリーナの規模や事業手法等の条件を定めるため、令和7年度から厚木市新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備基本計画（以下、「基本計画」という。）の策定を進めています。
- 基本計画の策定にあたっては、多様な人々が集う新たな交流拠点としての多目的アリーナの整備は、中心市街地の回遊性向上に寄与するなど様々な役割を有することから、第11期厚木市総合計画や、本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画、スポーツの聖地づくり基本構想などの内容を考慮するものとしします。

上位計画における基本計画の位置付け

第11次厚木市総合計画(令和7(2025)年策定予定)

まちづくり関連

- 厚木市都市計画マスタープラン
- 厚木市交通マスタープラン
- 厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画

公共施設整備関連

- 厚木市公共施設最適化基本計画
- 厚木市公共施設個別施設計画
- 厚木市複合施設等整備基本計画

子育て・産業関連

- 厚木市子ども・若者みらい計画
- 厚木市産業マスタープラン

■ 本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画

■ 厚木市スポーツの聖地づくり基本構想(令和7年3月策定)

■ 厚木市本庁舎敷地跡地等活用基本方針(令和7年3月策定)

■ 厚木市新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備基本計画(令和9年3月策定予定)

中心市街地の回遊性向上のイメージ



本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画（令和4年9月）を基に作成

出所：厚木市新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備基本計画策定方針より抜粋

2. 基本計画策定の概要

基本計画の検討概要 | 基本的な視点

- 基本計画は、次の4つの基本的な視点を踏まえて策定することとしています。

1

歩行者の目的地となる新たなにぎわいと交流の創出

プロスポーツのトップリーグ開催などの「みるスポーツ体験」や、高いエンターテインメント性を持つアーティストによる「音楽イベント等」の実現、市内企業を始めとする見本市・展示会を通じた「新たなビジネスチャンス」の創出など、歩行者の目的地として多様な人々が集う新たな交流拠点を創出し、回遊性向上を目指します。

2

周辺エリア全体の価値向上と災害対応力の強化

厚木中央公園や厚木中央公園地下駐車場、大手公園といった既存の公共施設等の周辺エリアと連携し、多目的アリーナと一体的に活用することにより、訪れた人々に連続性のある憩いの空間を確保します。また、本厚木駅周辺の災害対応力強化を図るため、大規模災害時における防災機能を確保します。

3

民間活力を最大限活用した持続可能な運営体制の構築

民間事業者へのサウンディング調査を踏まえながら、施設の設計、建設段階から民間のノウハウや創意工夫を最大限活用した「運営重視の施設」を目指します。また、財政負担の軽減と民間活力が効果的に発揮されることが両立できる持続可能な事業手法について検討を行います。

4

市民や民間事業者とのきめ細かな情報共有

基本計画の策定に当たっては、市民の皆様に対して、多目的アリーナ整備に関する本市の考え方を丁寧に説明するとともに、市の考え方に対する市民の皆様の意見を踏まえたものとするため、令和6年度に実施したオープンハウスを始め、多様な市民参加手続を実施します。また、基本計画を実効性のあるものとするため、サウンディング調査を実施するなど、事業の担い手である民間事業者とのきめ細かな対話を繰り返しながら検討を行うものとしします。

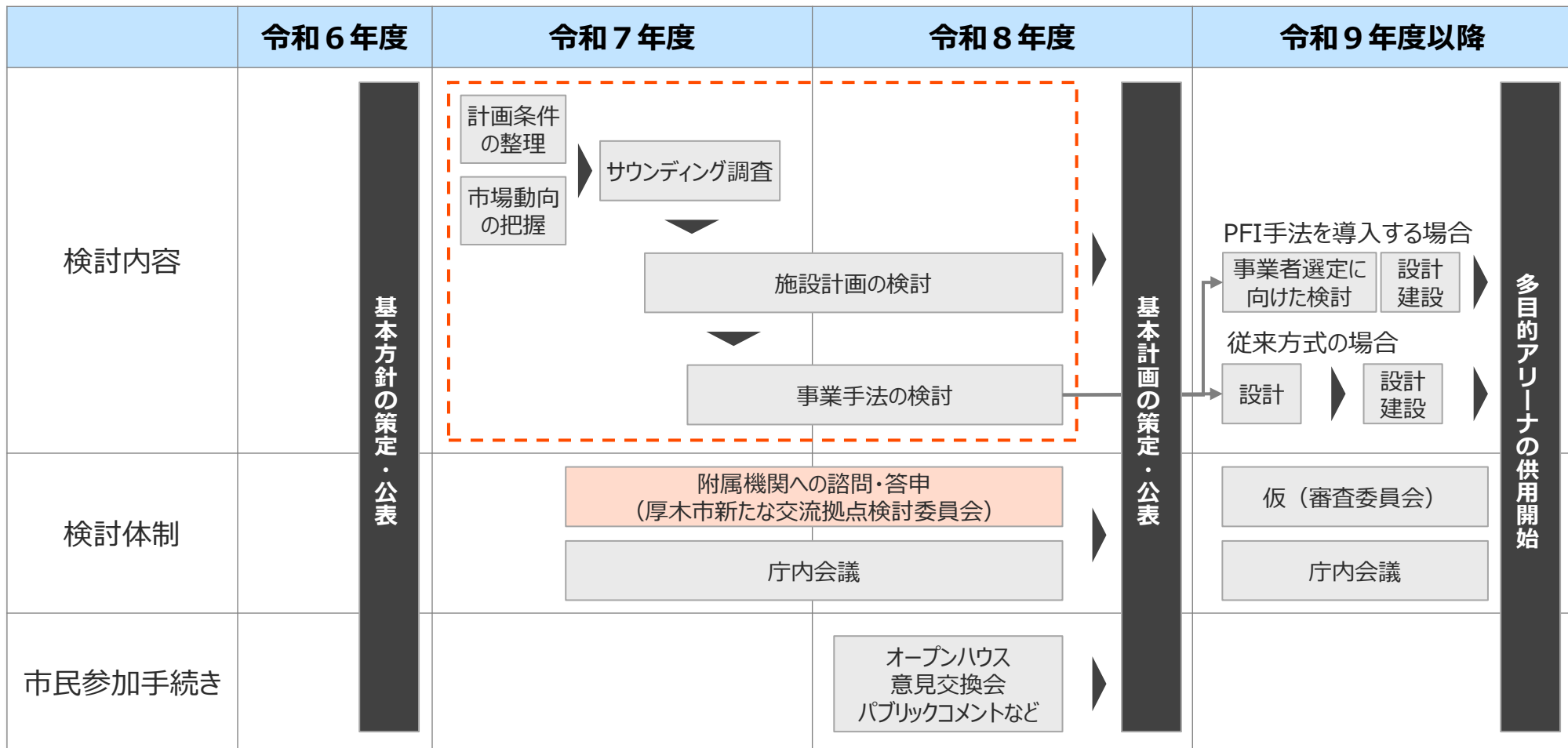
基本計画の検討概要 | 検討項目

- 基本計画は、次の検討手順に沿って策定します。

検討項目	内容
(1) 計画条件の整理	上位計画や関連計画等を整理し、国や他都市の動向に関する調査、分析を行います。
(2) 市場動向の把握	地方公共団体が整備した多目的アリーナを始めとした類似施設について、開発経緯、事業手法などの調査、分析を行います。
(3) サウンディング調査	プロスポーツ、音楽コンサート、その他利用の需要及び施設に求める機能について、各団体へサウンディング調査を行います。
(4) 施設計画の検討	(1)から(3)までの検討項目を踏まえ、施設の用途や利用対象者などを整理し、周辺交通環境等に対する影響も考慮した施設計画や配置計画を検討します。
(5) 事業手法の検討	多目的アリーナの特性を踏まえ、事業手法の特徴や留意点等を整理し、比較検討を行います。

事業スケジュール

- 基本方針の内容を踏まえ、中心市街地のまちづくりや地域活性化の核となる多目的アリーナの規模や事業手法等の条件を定める厚木市新たな交流拠点としての多目的アリーナ整備基本計画を策定します。
- 基本計画は令和7年度から着手し、令和8年度中に策定・公表するスケジュールを想定しています。



3. 需要予測ヒアリング調査の結果

得られた意見を踏まえた各需要の見込み（スポーツ需要）

- 需要予測ヒアリング結果を踏まえ、各需要の見込みを整理しました。

項目	主な意見	需要の見込み
<p>プロスポーツ・ その他イベント 需要の想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 厚木市でアリーナができると、周辺地域でBリーグのレギュレーションを満たすアリーナが無い場合、ホームアリーナに指定されやすい。ホームアリーナとした場合、ホームゲームを年間試合数の60%を開催することになる。 • Tリーグは、立地面で劣ることから厚木市での開催は4試合程度に留まるものとする。 • Hリーグは、レギュラーシーズンの試合数が増えれば厚木開催の日数を増やすことができる。収益性の観点から試合数の増加が望ましい。 • eスポーツのイベントを開催する場合、他のスポーツやテレビ観戦では味わえないライブ感が必要となるが、eスポーツに関しては、現地であっても配信であっても来場者が観るのはビジョンであり、ライブ観戦する体験価値が弱い。その点は他のスポーツよりも工夫が求められる。 • Vリーグ入りを目指す地元のバレーボールの実業団が存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> • Bリーグのレギュレーションを見たとす収容人数にすることでホームアリーナとして指定され、ホームゲームの開催日数を取り込むことが可能である。 • Tリーグは、立地条件からシーズンの部分的な開催日数を見込むことが可能である。 • Hリーグは、レギュラーシーズンの試合数が増えれば開催日数を増やすことが可能である。 • eスポーツは、バスケットコート仕様であれば、eスポーツは開催可能であるが、体験価値の点において課題がある。 • Vリーグのレギュレーションを見たとす収容人数にすることでホームアリーナとして指定され、ホームゲームの開催日数を取り込むことが可能である。
<p>アマチュア スポーツ需要 の想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大学バスケットボールは、全国大会を年2回（インカレ及び全国新人大会）開催しているほか、1年おきに日韓戦（定期戦）を実施している。インカレは、一定レベル以上の試合についてはアリーナ施設を活用しており、Bリーグチームがアリーナを整備していることも踏まえ、今後も地方含め全国で大会を開催していきたいと考えている。 • デベロップメント（育成）リーグを立ち上げし、参加する部員向けに、1年生時から企業の支援も受けた就職セミナーを運営している。 • 各大学ともに平日は授業のため、イベントや大会は土日開催が中心となるが、夏休み期間は平日での開催も可能である。 • 厚木市は立地としては十分可能性がある。 • プロレスは、熱心な市民や市出身の選手もあり、集客力があり、需要がある可能性がある。 • 厚木市周辺には、バリアフリーが充実した施設がないため、十分なバリアフリー性能を備えることで、障がい者スポーツのイベントで使える可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 予約調整や施設使用料によって、大学スポーツは、全国大会規模の場合、準決勝試合からの開催や夏の平日開催の需要を取り込むことが期待できる。 • デベロップメント（育成）リーグは地元企業との連携によりコンテンツ開発できる可能性がある。 • 立地面で利便性のある当該地では、プロレス等のイベント興行の需要が期待できる。 • バリアフリー性能を備えることで、パラスポーツイベントの需要が期待できる。

得られた意見を踏まえた各需要の見込み（コンサート・MICE需要）

- 需要予測ヒアリング結果を踏まえ、各需要の見込みを整理しました。

項目	主な意見	需要の見込み
<p>コンサート 需要の想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 厚木市文化会館は、比較的都心から近いこと、高速道路のICから近いこと、駐車場が大きいこと等から、プロモーターから使いやすいと評価されていると考えている。初日公演に利用されることも多い。 • コンサート興行の舞台装置等について、全国的に5,000人規模のアリーナが整備されると、5,000人アリーナのための規格化が進む可能性はあるが、すぐにその潮流が起こるかは予想できない。 • 施設使用料や使いやすさ、最新の音響設備等を備えることで、コンサートを誘致できる可能性があるが、現時点で3,000～5,000人規模の需要は未知数である。 • ホールツアーは埋めることができるが、アリーナツアーは難しいようなアーティストをターゲットにすることで、それほど数は多くないが、多少の利用を見込むことができる可能性はある。ただし、興行としては赤字になる可能性が高い。 • 音響等の設備を充実させたとしてもそれほど需要が大きくなるとは考えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 2,000人以下のコンサート興行は好調であるが、5,000人規模のアリーナは事例が少なく、需要が未知数である。 • 他方で、競合分析を行い、戦略的な施設使用料の設定やここでしか体験できない設備等を備えることでコンサート需要を見込むことが出来る可能性もあるが、需要拡大はそれほど期待できない。 • 5,000人規模で開催できるアーティストの需要は微少であるが、見込むことができる可能性がある。
<p>MICE・観光 需要の想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • MICEは、小田急線沿線に使い勝手の良いMICE施設はあまりないので、スポーツに寄りすぎず、平土間で天井高の高い施設とすると、重宝する可能性がある。 • ファミリー層の日常の活動拠点としての需要がある可能性があるが、それをどうコンテンツにするかは要検討である。 • アリーナで行うイベントに絡めて、地酒やご当地の食品を使ったイベントなどを開催する等はあると思う。 • アリーナを活用した観光事業のアイデアとしては、アリーナと屋外広場でアウトドアブランドのキャンプ用品のフェアを開催し、そのままバスで山間部に向かいキャンプをするといったイベントが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 土間コンクリートのアリーナ床仕様にすることやアリーナ部分まで車両が乗り入れできる設えにすることで、MICE需要も取り込むことが出来る可能性がある。 • ファミリー層をターゲットにしたイベント開催の可能性もある。 • アリーナと屋外広場（厚木中央公園）を使っていつも何かのイベントが開催されているエリアとして認知されることでまちの回遊性や集客力を高めることができる。

4. 本事業における特徴と厚木市の強み

(1) 本事業における特徴と厚木市の強み (2/3)

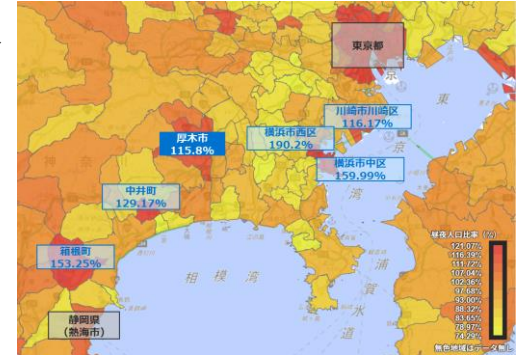
- これまでの検討や需要予測ヒアリング調査を通じて、本事業における特徴と厚木市の強みを整理しました。

- ① 県央・県西エリアに「みるスポーツ」やイベント興行を主体とした施設がない
- ② 事業対象地は利便性が高い
- ③ 既存体育館の建て替え事業ではない
- ④ **昼夜間人口比率が高い**
- ⑤ **県内において多くの人口を抱え転入者も多い**
- ⑥ **大手企業が多数立地し経済活動が盛んである**
- ⑦ 対象地に隣接する厚木中央公園では年間を通じて様々なイベントが開催されている
- ⑧ 「音楽都市あつぎ」「スポーツの聖地づくり」等、文化・スポーツの環境整備が進んでいる
- ⑨ 屋内プロスポーツの開催や機運醸成を積極的に行っている

4

昼夜間人口比率が高い

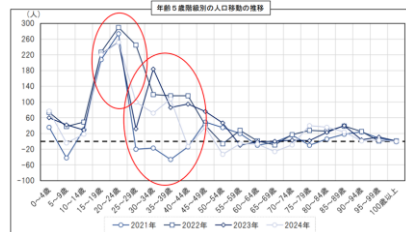
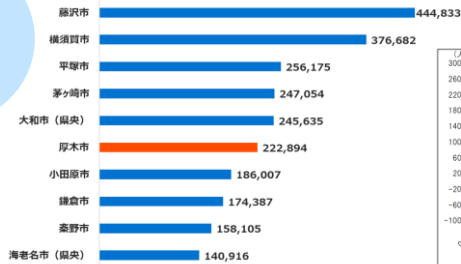
本市の昼夜間人口比率は115.8%となっており、人口が流入超過となっています。県内の1事業所当たりの従業員数は県内3位となっており、周辺と比較して、本市が事業所数や従業員数において優位にあることがうかがえます。



5

県内において多くの人口を抱え転入者も多い

本市の人口は神奈川県においては第6位（政令市を除く）、県央地域においては大和市に次ぐ第2位の人口規模を持ちます。子育て政策に力を入れており、（子育て世代の）20歳代・30歳代の転入超過の傾向が顕著に見られます。



6

大手企業が多数立地し経済活動が盛んである

本市は研究開発型の製造業（自動車・電機・精密）が盛んであり、大手5社（Astemo、アンリツ、ソニー、日産、リコー）をはじめとする、企業の研究開発拠点や理工系大学の立地も多くなっています。

アンリツ（本社）



神奈川工科大学



(1) 本事業における特徴と厚木市の強み (3/3)

これまでの検討や需要予測ヒアリング調査を通じて、本事業における特徴と厚木市の強みを整理しました。

- ① 県央・県西エリアに「みるスポーツ」やイベント興行を主体とした施設がない
- ② 事業対象地は利便性が高い
- ③ 既存体育館の建て替え事業ではない
- ④ 昼夜間人口比率が高い
- ⑤ 県内において多くの人口を抱え転入者も多い
- ⑥ 大手企業が多数立地し経済活動が盛んである
- ⑦ 対象地に隣接する厚木中央公園では年間を通じて様々なイベントが開催されている
- ⑧ 「音楽都市あつぎ」「スポーツの聖地づくり」等、文化・スポーツの環境整備が進んでいる
- ⑨ 屋内プロスポーツの開催や機運醸成を積極的に行っている

7

対象地に隣接する厚木中央公園では年間を通じて様々なイベントが開催されている

厚木中央公園や厚木公園で開催されている市イベントは、市独自のコンテンツとして毎年多くの来場者を集め、まちのにぎわいを創出しています。



8

「音楽都市あつぎ」「スポーツの聖地づくり」等、文化・スポーツの環境整備が進んでいる

本市では、あつぎミュージックフェスティバルの開催を通じて、新人シンガー発掘オーディションの優勝者と有名アーティストが共演するなど音楽都市としての文化活動やスポーツをする人、みる人、支える人、みんなが楽しめる環境づくりを目指したスポーツの聖地づくりを目指しています。



スポーツの聖地づくり基本構想(案)
(スポーツ施設整備基本構想)

令和7年3月
厚木市

9

屋内プロスポーツの開催や機運醸成を積極的に行っている

本市を本拠地とし、Vリーグ加入を目指すバレーボールチームが存在するほか、本市でホームゲームを開催するチームもある等、屋内スポーツの誘致に積極的に関わっています。また、スポーツを通じた地域づくりの推進を目的に、プロスポーツチームとの連携協定も締結しています。

本市に本拠地を置く
シズカバイキングス厚木
(バレーボール)






本市、湘南ユナイテッド（Bリーグ）、厚木商工会議所による連携協定

5. モデルプラン、配置計画案

(1) モデルプランの設定 | 配置検討 (ボリューム検討) の候補

- 体系的且つバリエーションのある規模検討を行うため、次の3つのモデルプランを配置検討の候補として設定しました。

パターン	①スポーツ利用特化型のアリーナ		②劇場型のアリーナ		③兼用利用型のアリーナ	
概要	「する」スポーツに加えて、「みるスポーツ」の環境を取り入れたスポーツ利用のみに特化した施設 口型観客席にすることで、スポーツ観戦に最適な囲み感や臨場感のある観戦環境を整備		可能な限りフロアサイズを縮小し、固定の観客席を増やしてプロスポーツやコンサートの「みる」環境を充実させた劇場型の施設		スポーツやコンサート利用等の多目的利用に対応した施設（仮設の座席割合が多い）	
モデルプラン	①-1	①-2	②-1	②-2	③-1	③-2
規模	最小	最大	最小	最大	最小	最大
入場可能数	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人
フロアサイズ	1,900㎡	1,900㎡	720㎡	1,600㎡	2,500㎡	2,500㎡
客席形状	口型	口型	馬蹄型	馬蹄型	U型	U型
ステージ	—	—	常設	常設	常設	常設
レイアウトイメージ	 <p>口型観客席</p>		 <p>馬蹄型観客席</p>		 <p>U型観客席</p>	
配置検討の候補	●			●		●

※上記のレイアウトイメージ図は、多目的アリーナのバリエーションのある配置検討を行うために作成したものであり、建物のレイアウトや座席、ステージなどの記載内容は確定したものではありません。

参考 | フロアサイズと対応可能な競技種目の面数

項目	①スポーツ利用特化型のアリーナ	②劇場型のアリーナ	③兼用利用型のアリーナ
モデルプラン フロアサイズ ※各面積参照は	<p>53.6m 39.2m 約 1,900 m²</p>	<p>48.2m 35.4m 約 1,600 m²</p>	<p>59m 44.6m 約 2,500 m²</p>
市民スポーツ 利用時 参考プラン	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール：1面 コートサイズ 28m×15m バスケット：2面 コートサイズ 18m×9m バレーボール：2面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン：8面 	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール：1面 コートサイズ 28m×15m バスケット：1面 コートサイズ 18m×9m バレーボール：1面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン：4面 	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール：2面 コートサイズ 28m×15m バスケット：3面 コートサイズ 18m×9m バレーボール：3面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン：10面
プロスポーツ 利用時 参考プラン	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット：1面 可動席 席数：約 1,200 席 コートサイド席 席数：約 400 席 	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット：1面 可動席 席数：約 1,000 席 コートサイド席 席数：約 1,000 席 	<ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット：1面 可動席 席数：約 1,900 席 コートサイド席 席数：約 400 席
コンサート 利用時 参考プラン	<ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数：約 900 席 アリーナ席 席数：約 1,100 席 	<ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数：約 1,000 席 アリーナ席 席数：約 700 席 	<ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数：約 1,400 席 アリーナ席 席数：約 1,200 席

施設計画の考え方 (1/2)

- 施設規模やアクセス計画等、施設計画の検討に必要な事項の考え方を整理しています。



施設規模 (席数)

3,000席と5,000席の施設規模を軸に、用途（スポーツ・音楽）で客席形状を設定し、いずれも建築可能な敷地寸法・バックヤード条件、Bリーグ等のプロスポーツリーグのアリーナ要項を満たすことを前提条件に施設規模を設定

配置計画案のパターン	スポーツ利用特化型	劇場・音楽特化型	スポーツ・音楽兼用型
客席形状／席数	口型／約3,000席	扇型／約5,000席	U型／約5,000席
施設形状と規模の考え方	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ競技等に適した形状 屋内プロリーグの基準を満たす席数 	<ul style="list-style-type: none"> 音響・視認性を重視した形状 B.PREMIER等のライセンスを満たす席数 	<ul style="list-style-type: none"> 汎用性が高く、地域イベント～ライブまでカバーする形状 B.PREMIER等のライセンスを満たす席数



施設規模 (アリーナ平場)

主要利用形態（スポーツ興行、音楽コンサート、兼用利用等）に応じて、運営効率と演出自由度を確保できるフロアサイズを設定

配置計画案のパターン	スポーツ利用特化型	劇場・音楽特化型	スポーツ・音楽兼用型
アリーナ平場面積	約1,900㎡	約1,600㎡	約2,500㎡
施設形状の考え方	国民体育大会施設基準（全種目対応）	事例において、プロリーグを満たす最小の実績値	音楽イベントを実施したアリーナ事例の平均値



施設規模 (導入諸室)

アリーナ施設内に導入する諸室について、興行を開催することを前提とした計画と規模を設定

ホスピタリティ&収益施設	エントランス・コンコース・一般階段	その他諸室 (売店・トイレ・階段・廊下・機械室等)
<ul style="list-style-type: none"> 貸館収入に依存しない事業モデルを構築するため、飲食・ラウンジ・多目的スペース等のホスピタリティ関連諸室および収益施設を計画 一般動線と分離された専用動線を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者動線の安全性・快適性を確保しつつ、イベント前後のピーク動線に対応できる規模を確保 必要な出入口数と流動量を満たしつつ、全体として約10,000㎡程度となるように調整 	<ul style="list-style-type: none"> コンサート、スポーツ、MICEなど多様な利用形態に柔軟に対応するため、バックヤード/付帯諸室は多目的利用を前提とした容量と配置計画 来場者利便性、運営効率、保守性の観点から、必要な機能、容量を設定

施設計画の考え方 (2/2)

- 施設規模やアクセス計画等、施設計画の検討に必要な事項の考え方を整理しています。

配置検討 (エントランス)

主にメインエントランスの位置と来場者待機スペースの位置から敷地配置を検討し、南側と北側の2パターンを設定

南側エントランス案の特徴

- 本厚木駅、市街地側からのアクセス性が高い
- 搬入ヤードは北側に配置しやすい
- 周辺道路ネットワークとの接続が自然で誘導計画が容易
- 敷地内で歩車分離が容易

北側エントランス案の特徴

- 公園への直通動線を確保し、周辺エリアの回遊性を促進
- 広場を公園と連続して確保でき、余剰敷地の活用幅が広い
- 搬入ヤードは北側を出入口としながら、南側に配置が可能
- 滞留スペースからの騒音について近隣への影響が低い

アクセス計画 (搬入動線)

搬入動線は、大型車両がアリーナ内部に到達可能な動線を確保するとともに、音楽イベント時の大量搬入に耐えるバックヤードを確保し、駐車場は、VIP・関係者専用の駐車場台数を敷地内に確保

南側エントランス案：45～47台 北側エントランス案：22～59台

座席数からの類推	興行実態からの必要数	イベント種別による変動
関係者駐車場 = 収容人数の0.5～1.0% 3,000席 → 15～30台 5,000席 → 25～50台	<ul style="list-style-type: none"> アーティスト関係：10～15台 制作関係：5～10台 警備・運営：5～10台 VIP：10～20台 合計：30～50台 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ中心：25～40台 音楽ライブ中心：40～60台

滞留スペース

来場者が敷地外に滞留することを防ぐため、車両動線とのすみ分けを踏まえ、敷地内に一定の滞留スペースを確保

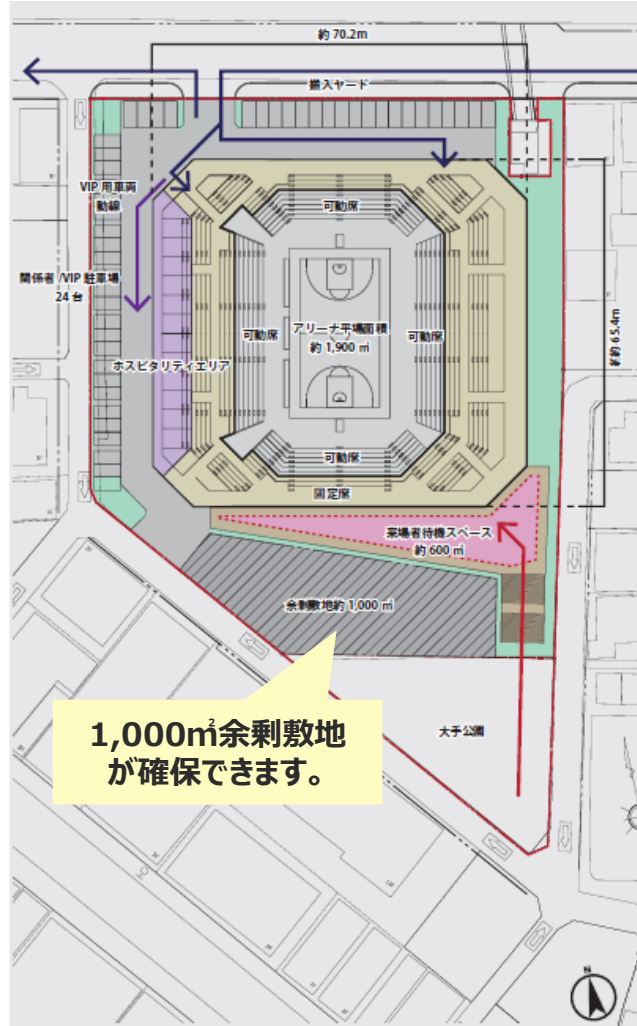
南側エントランス案：600～1,000㎡ 北側エントランス案：700～800㎡

国内アリーナ実例	歩行者広場	避難安全上の観点 /建築基準法
<ul style="list-style-type: none"> 3,000席：500～600㎡ (例：横浜武道館) 10,000席：2,000㎡ (例：武蔵野の森プラザ) 	席数の10～20%が滞留できる空間（イベント性を考慮し1.5倍程度上積みが必要（物販等）） <ul style="list-style-type: none"> 3,000席 → 300～600㎡ 5,000席 → 500～1,000㎡ 	観客の集中を考慮し、建物前に計画的な広場空間が必要（明確な㎡規定はなく避難計画） ※出口幅×歩行流量×避難時間から規模が決まる

(3) 敷地への配置計画案 | 平面図 (南側エントランス案)

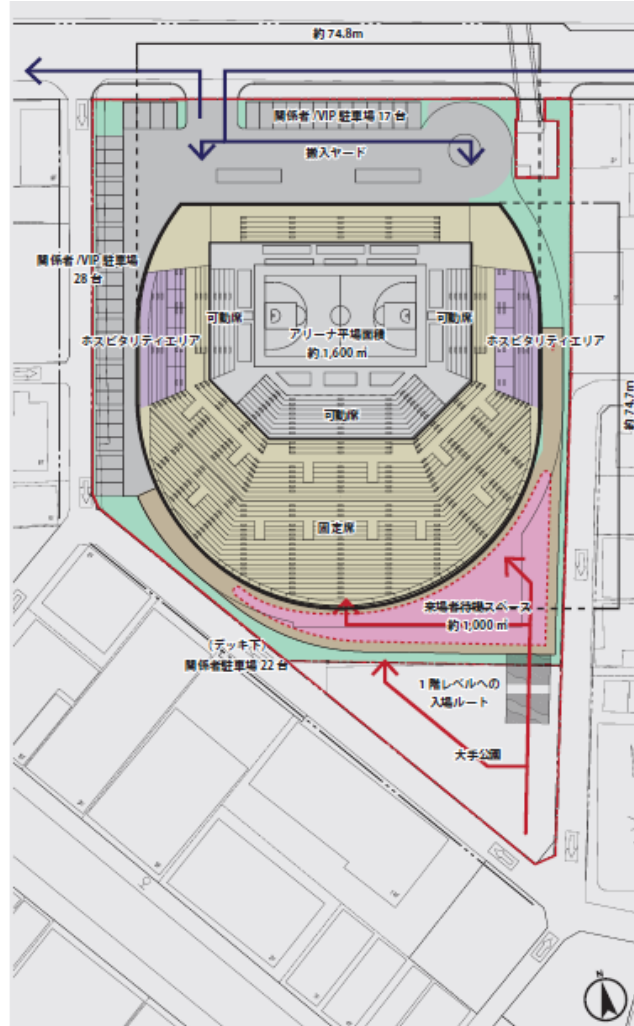
① スポーツ利用特化型のアリーナ

3,000席・フロアサイズ1,900㎡



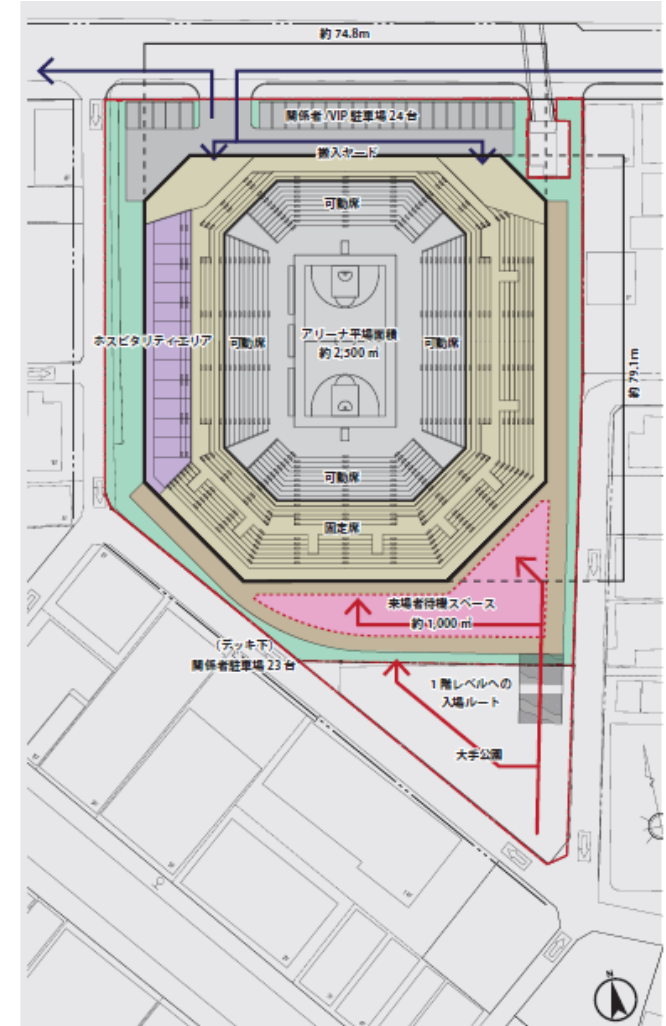
② 劇場型のアリーナ

5,000席・フロアサイズ1,600㎡

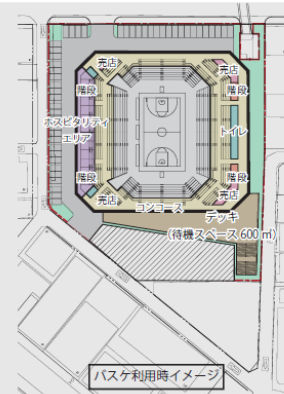
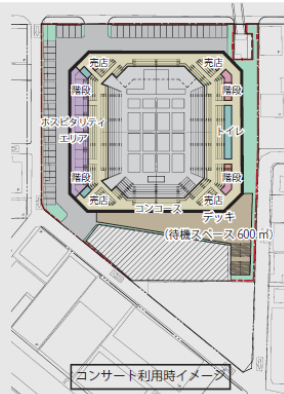
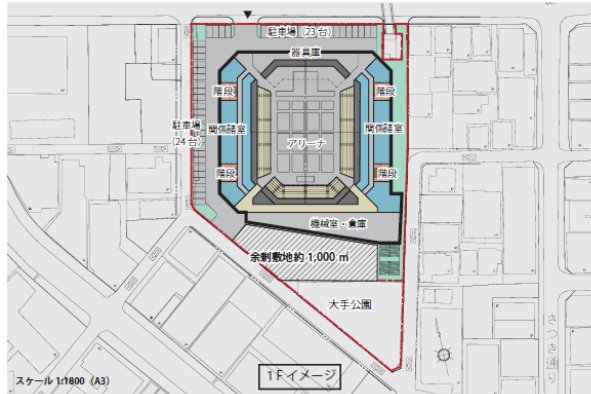


③ 兼用利用型のアリーナ

5,000席・フロアサイズ2,500㎡



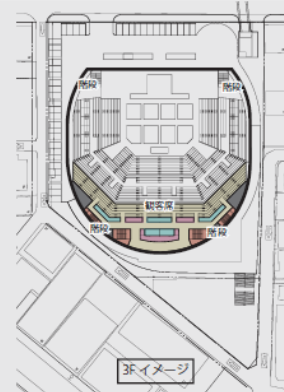
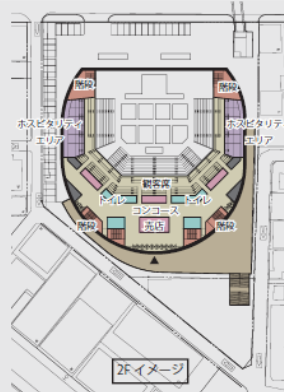
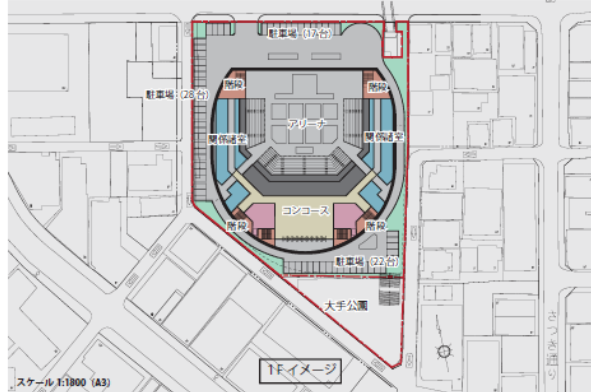
(3) 敷地への配置計画案 | 各階レイアウト図 (南側エントランス案)



スポーツ利用特化型のアリーナ

(フロアサイズ: 約 1,900 m²)、客席形状: 口型

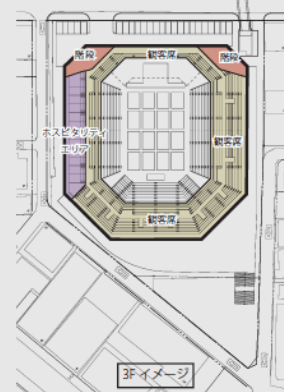
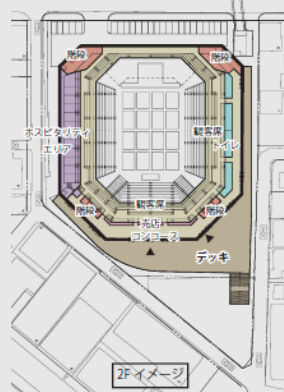
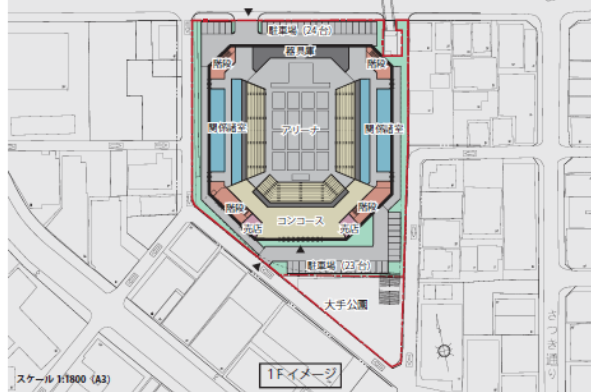
延床面積		建築面積
1階:	約 5,100 m ²	約 5,100 m ² (デッキ含む)
2階:	約 2,400 m ²	建物高さ 約 20m
合計:	約 7,500 m ²	駐車場台数 約 47台
客席数		ホスピタリティエリア
可動席:	約 900 席	約 400 m ²
固定席:	約 1,100 席	売店 約 60 m ²
コンサート利用時:	約 3,100 席	
バスケットボール利用時:	約 3,200 席	



劇場型の多目的ホール

(フロアサイズ: 約 1,600 m²)、客席形状: 扇型

延床面積		建築面積
1階:	約 5,000 m ²	約 6,000 m ² (デッキ含む)
2階:	約 3,000 m ²	建物高さ 約 25m
3階:	約 1,300 m ²	駐車場台数 約 45台
合計:	約 9,300 m ²	ホスピタリティエリア
客席数		約 400 m ²
可動席:	約 1,000 席	売店 約 200 m ²
固定席:	約 3,500 席	
コンサート利用時:	約 5,200 席	
バスケットボール利用時:	約 5,000 席	



兼用利用型の多目的ホール

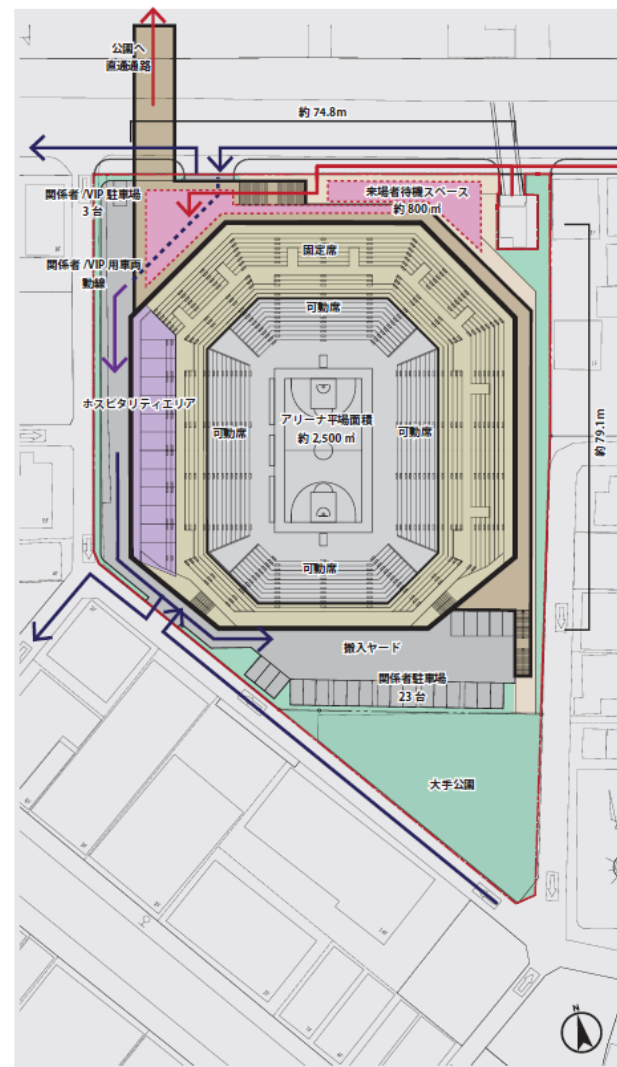
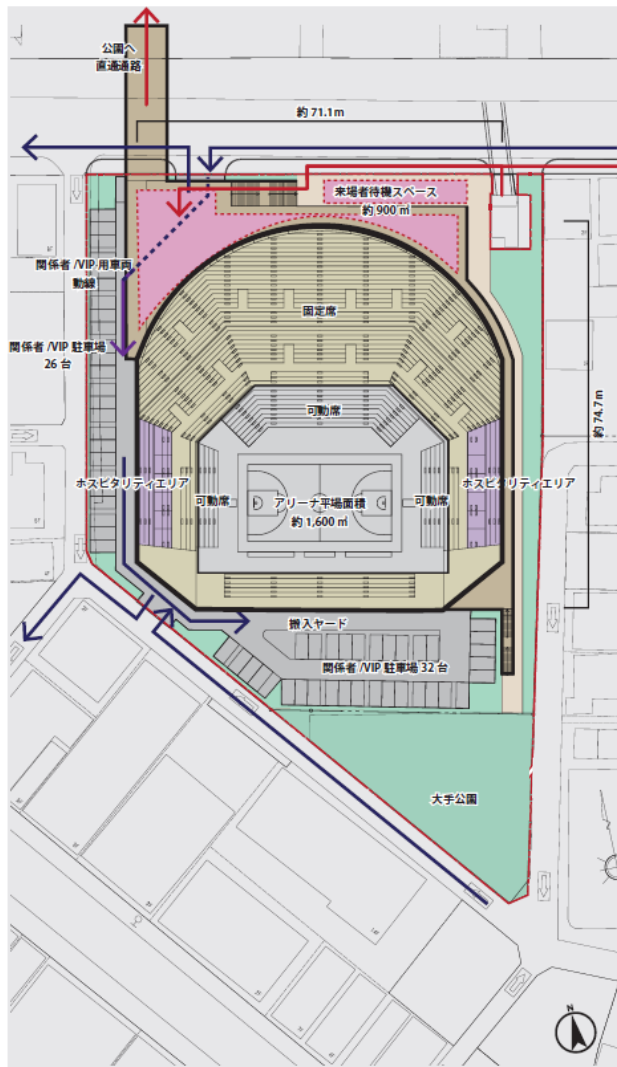
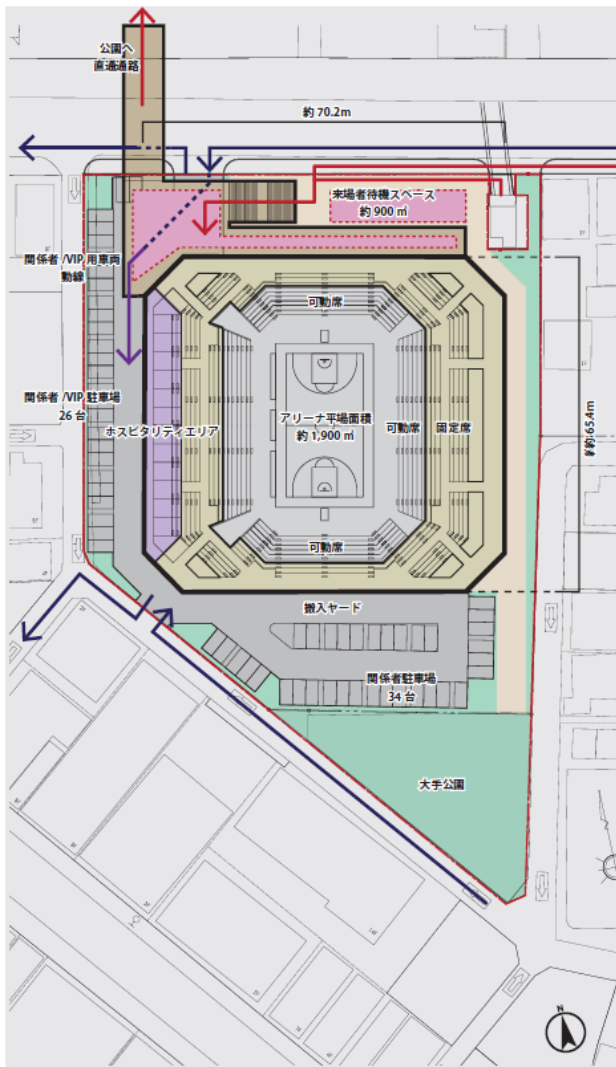
(フロアサイズ: 約 2,500 m²)、客席形状: U型

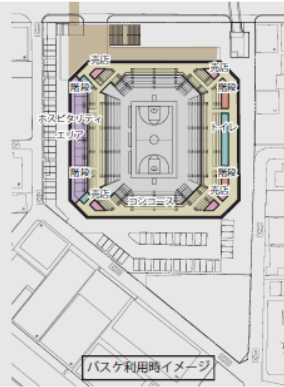
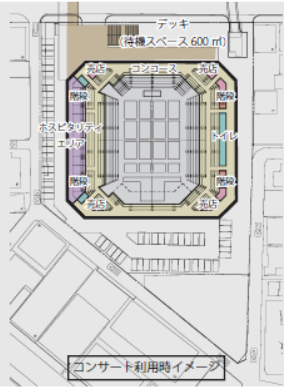
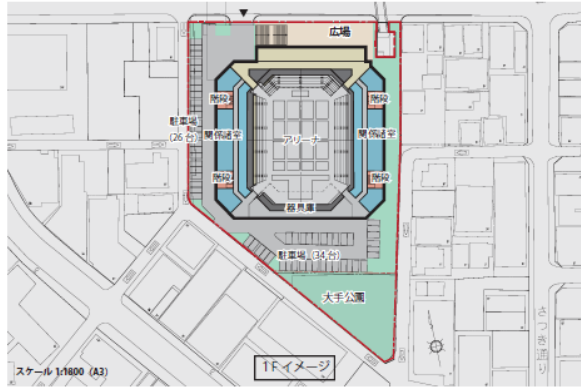
延床面積		建築面積
1階:	約 5,900 m ²	約 7,000 m ² (デッキ含む)
2階:	約 3,000 m ²	建物高さ 約 25m
3階:	約 1,300 m ²	駐車場台数 約 45台
合計:	約 10,200 m ²	ホスピタリティエリア
客席数		約 400 m ²
可動席:	約 1,900 席	売店 約 150 m ²
固定席:	約 2,800 席	
コンサート利用時:	約 5,200 席	
バスケットボール利用時:	約 5,100 席	

敷地への配置計画案 | 平面図 (北側エントランス案)

更新

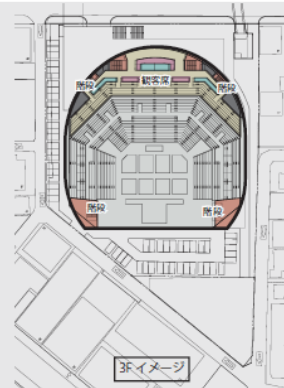
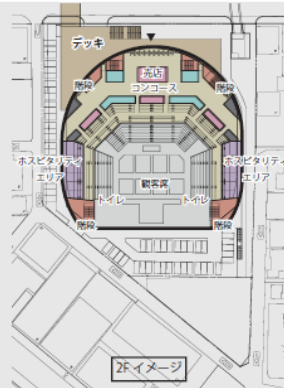
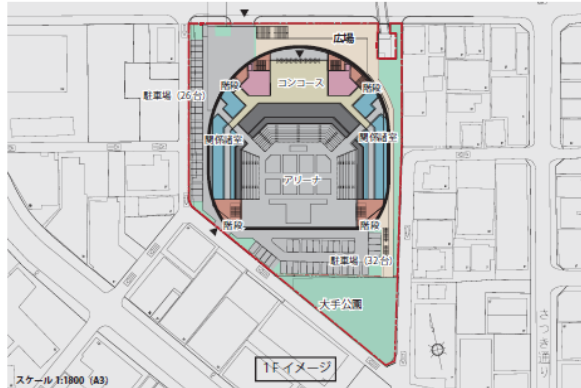
<p>①スポーツ利用特化型のアリーナ 3,000席・フロアサイズ1,900㎡</p>	<p>②劇場音楽型のアリーナ 5,000席・フロアサイズ1,600㎡</p>	<p>③スポーツ・音楽兼用型のアリーナ 5,000席・フロアサイズ2,500㎡</p>
--	--	---





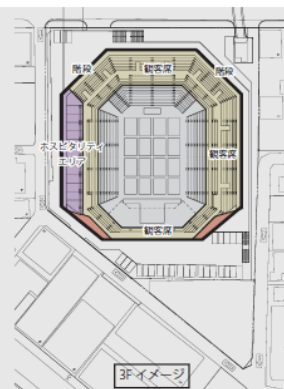
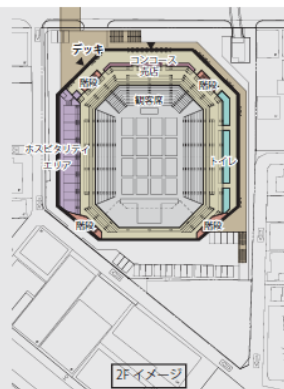
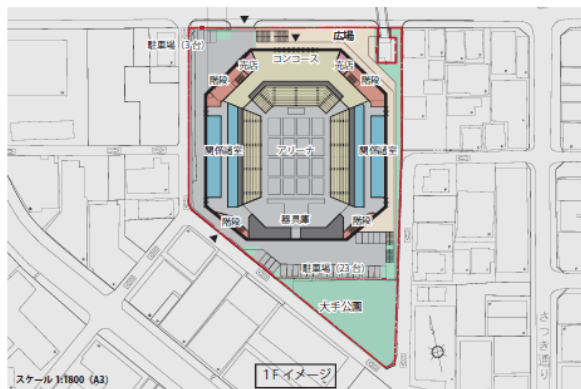
スポーツ利用特化型のアリーナ
(フロアサイズ：約 1,900 ㎡)、客席形状：ロ型

延床面積	建築面積
1階： 約 5,100 ㎡	約 5,100 ㎡ (デッキ含む)
2階： 約 2,400 ㎡	建物高さ
	約 20m
合計 ： 約 7,500 ㎡	駐車場台数
	約 60台
客席数	ホスピタリティエリア
可動席： 約 900席	約 400㎡
固定席： 約 1,100席	売店
コンサート利用時： 約 3,100席	約 60㎡
バスケットボール利用時： 約 3,200席	
建ぺい率/容積率：58.7% (80%) / 86.3% (500%)	



劇場型の多目的ホール
(フロアサイズ：約 1,600 ㎡)、客席形状：扇型

延床面積	建築面積
1階： 約 5,000 ㎡	約 5,800 ㎡ (デッキ含む)
2階： 約 3,000 ㎡	建物高さ
3階： 約 1,300 ㎡	約 25m
合計 ： 約 9,300 ㎡	駐車場台数
	約 58台
客席数	ホスピタリティエリア
可動席： 約 1,000席	約 400㎡
固定席： 約 3,500席	売店
コンサート利用時： 約 5,200席	約 200㎡
バスケットボール利用時： 約 5,000席	
建ぺい率/容積率：66.8% (80%) / 107.1% (500%)	



兼用利用型の多目的ホール
(フロアサイズ：約 2,500 ㎡)、客席形状：U型

延床面積	建築面積
1階： 約 5,900 ㎡	約 6,200 ㎡ (デッキ含む)
2階： 約 3,000 ㎡	建物高さ
3階： 約 1,300 ㎡	約 25m
合計 ： 約 10,200 ㎡	駐車場台数
	約 26台
客席数	ホスピタリティエリア
可動席： 約 1,900席	約 400㎡
固定席： 約 2,800席	売店
コンサート利用時： 約 5,200席	約 150㎡
バスケットボール利用時： 約 5,100席	
建ぺい率/容積率：71.4% (80%) / 117.4% (500%)	

6. 事業方式

(1) 主なアリーナ施設の事業方式

- 公の施設として整備され、指定管理者制度により運営されるアリーナ施設が大半を占めるなか、PFI事業による運営から民設民営でのアリーナ施設まで多岐にわたる事業方式による開発がされています。
- 本事業で検討候補としているのは、PFI-BTO方式とBT+コンセッション方式です。

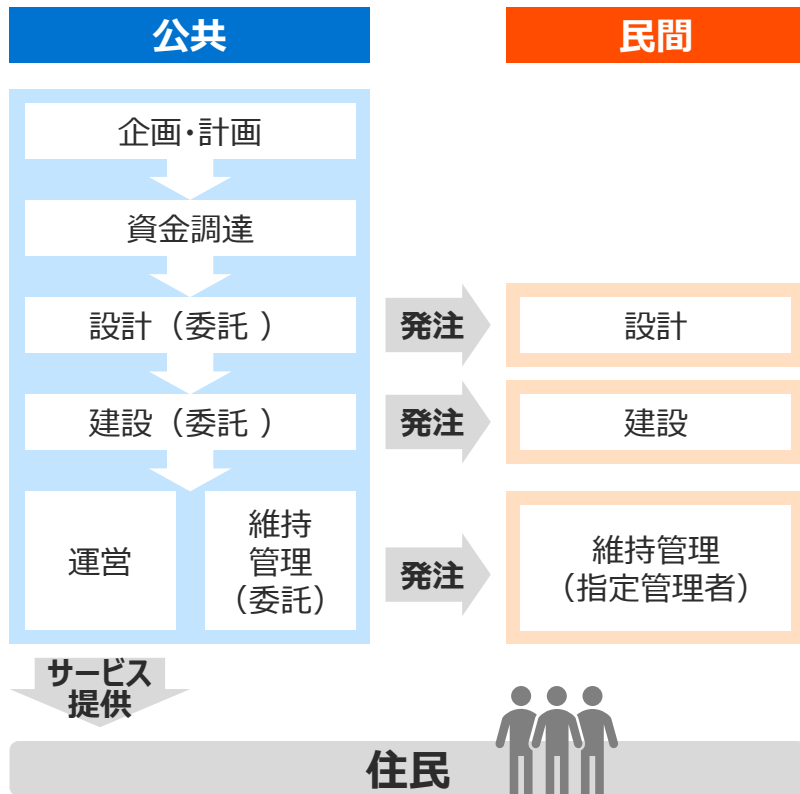
事業方式	根拠法	事業期間※1	特徴	事例
従来発注+指定管理	地方自治法	3～7年程度	整備された公の施設の目的を効果的に達成するため、民間事業者に公の施設の管理を行わせる制度。	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄アリーナ（従来手法） SAGAアリーナ（従来手法） あなぶきアリーナ香川（設計コンペ+従来手法） 他多数
PFI方式 (BTO・BOT・BOO)	PFI法	10～30年程度	民間のノウハウや資金を活用して、公共施設等の事業化を行う制度。設計施工運営維持管理を一体化することで設計の段階から運営の視点を取り入れた設計施工が可能となるもの。	<ul style="list-style-type: none"> エスフォルタアリーナ八王子(BTO) ひがしんアリーナ(BTO) 横浜BUNTAI(BTO) 北里アリーナ富士(BTO) 秋田新県立体育館(BTO) 他多数
コンセッション事業	PFI法	30年	利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共が有したまま、施設の運営権を民間が有する制度。	<ul style="list-style-type: none"> 有明アリーナ(コンセッション) IGアリーナ(BT+コンセッション) 新秩父宮ラグビー場(BT+コンセッション) 等々力アリーナ(コンセッション) 富山市総合体育館(Rコンセッション)
負担付寄附	地方自治法	45年	寄付金や出資等で資金調達を行い、整備後に行政に寄付し、寄付したものが運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 横浜アリーナ ゼビオアリーナ仙台（改修）
PRE事業 (公的不動産の活用)	地方自治法 民法 借地借家法	10～50年未満	公有地において、民間事業者が事業として実施する制度。	<ul style="list-style-type: none"> 舞洲アリーナ（普通財産の貸付） ゼビオアリーナ仙台（定期借地） フラット八戸（定期借地） Kアリーナ横浜（公有地購入） GLIONアリーナ神戸（定期借地）

※1）法令上、制限がなく、上表には事例ベースの事業期間を記載。

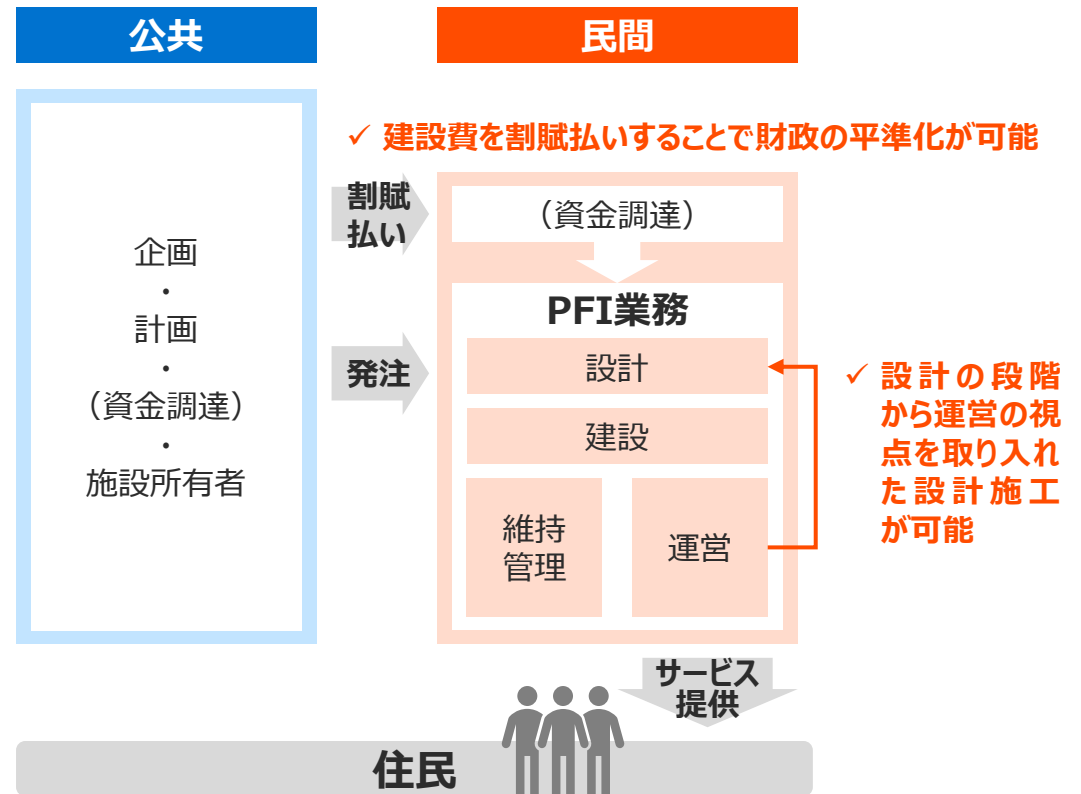
(2) 従来型公共事業とPFI事業の違い

- PFI、DBOは設計～運営が一括発注されます。自治体としては、個別の業務の効率性のみならず、事業全体としての効率性を期待しています。
- 民間事業者は一括発注に対応して、事業提案を行うチーム組成（コンソーシアムの組成）が必要となります。そしてそのためには、地域内外のネットワークを構築する必要があります。

従来型公共事業（分離発注）



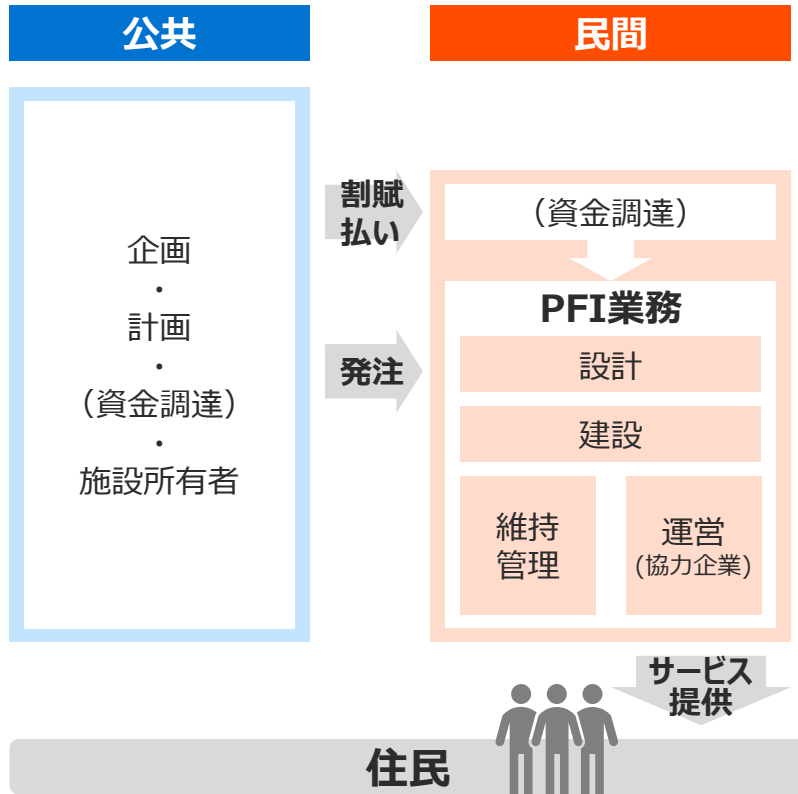
PFI事業（一括発注）



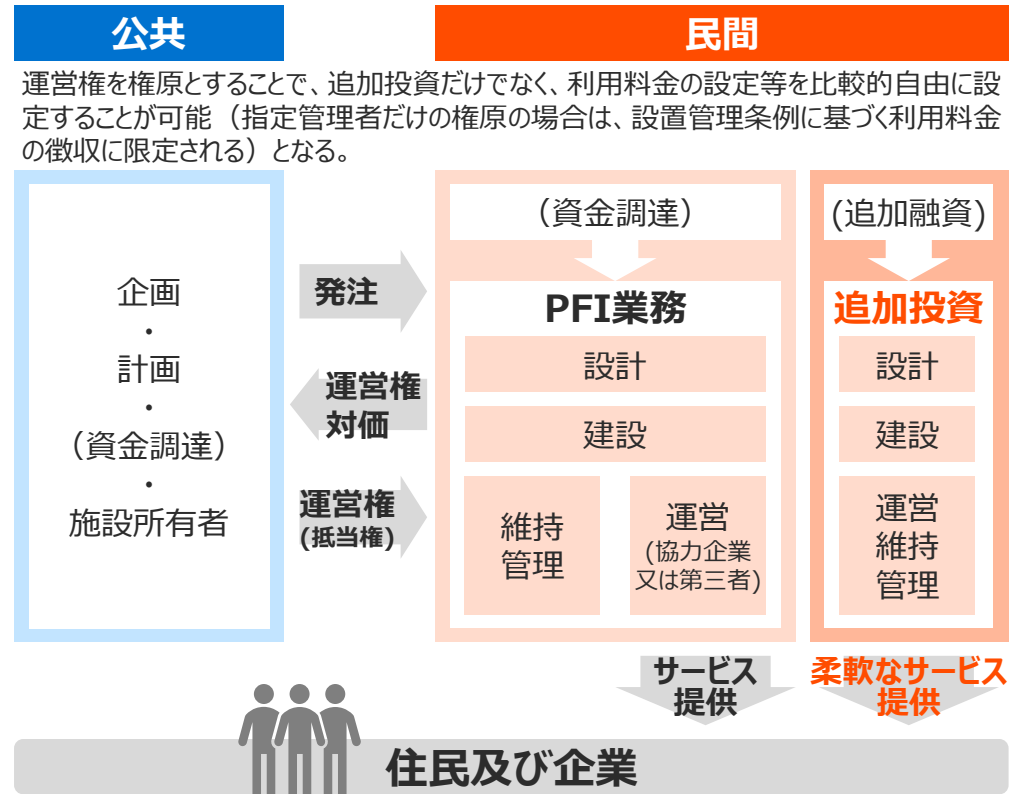
(3) PFI-BTO方式とBT+コンセッション方式の違い

- PFI事業（BTO方式）の場合は、対象業務のみを実施する民間事業者であることから、行政からのサービス対価や民間事業者の売上に基づく経営範囲に限定（プロジェクトファイナンスで実施するため、追加投資はなく、毎年のキャッシュの範囲で事業展開することになる）され、提案段階で、事業期間内における現実的な施策が提案されやすいです。
- BT+コンセッション方式の場合は、PFI法に基づき、運営権を物権として扱うことができ、SPCは、運営権に抵当権を設定し、それを担保に金融機関が追加融資を行うことができ、収益の最大化を図るための施策が提案されやすいです。

PFI事業（BTO方式）



PFI事業（BT+コンセッション方式）



運営権を権原とすることで、追加投資だけでなく、利用料金の設定等を比較的自由に設定することが可能（指定管理者だけの権原の場合は、設置管理条例に基づく利用料金の徴収に限定される）となる。

(4) BT+コンセッションにおける財政負担額のイメージ

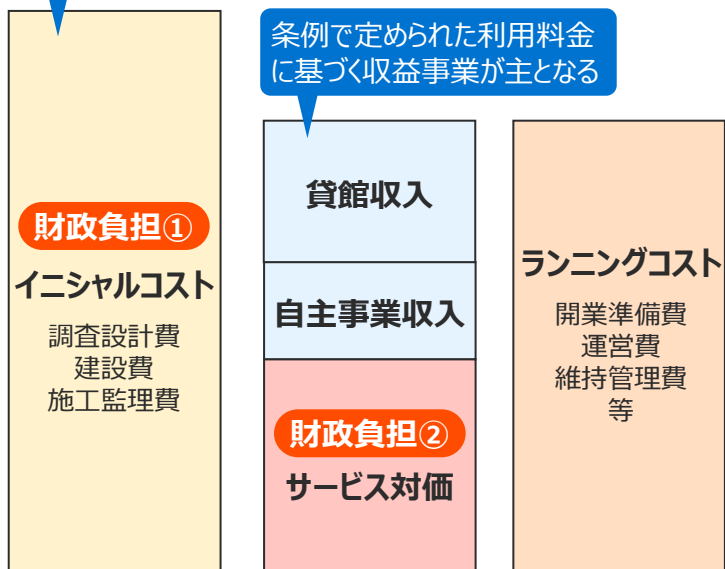
- PFI-BTO方式とBT+コンセッション方式の財政負担額のイメージは次のとおりです。
- BT+コンセッション方式においては、インシャルコストのみの財政負担で事業化が可能な独立採算型（この場合、右下図の財政負担②が不要となります）とサービス対価を要する混合型があります。

PFI事業（BTO方式）

- 財政負担①は、施設整備に必要なインシャルコスト
- 財政負担②は、事業の収入と支出の不足分をサービス対価としてPFI事業者に毎年支払うランニングコスト（指定管理料）
- 行政は上記①②の合計額を予定価格として設定

設定された予定価格の範囲で民間ノウハウを発揮し、施設整備を行う

条例で定められた利用料金に基づく収益事業が主となる



施設整備費

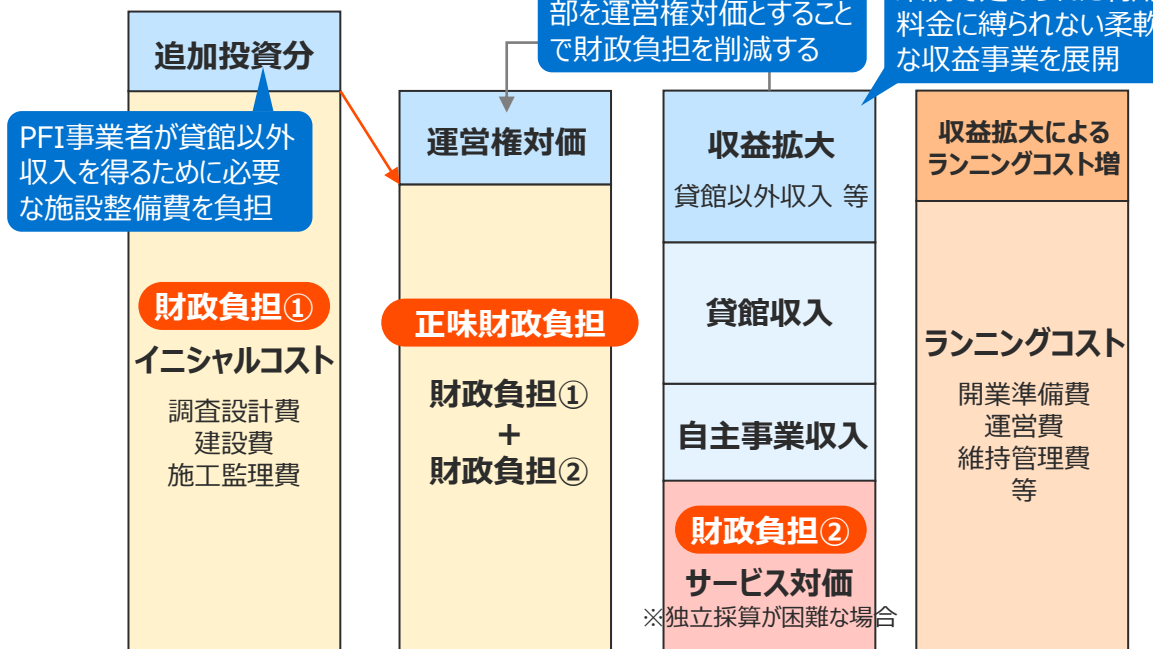
PFI事業者の収支

PFI事業（BT+コンセッション方式）

- 財政負担①は、施設整備に必要なインシャルコスト（BT部分）
- 財政負担②は、コンセッション事業として独立採算ができない場合、サービス対価としてPFI事業者に毎年支払うランニングコスト
- 貸館以外収入等による収益拡大が確保できることで、運営権対価を確保し、財政負担を削減させる

収入で得られた利益の一部を運営権対価とすることで財政負担を削減する

条例で定められた利用料金に縛られない柔軟な収益事業を展開



※独立採算が困難な場合

施設整備費

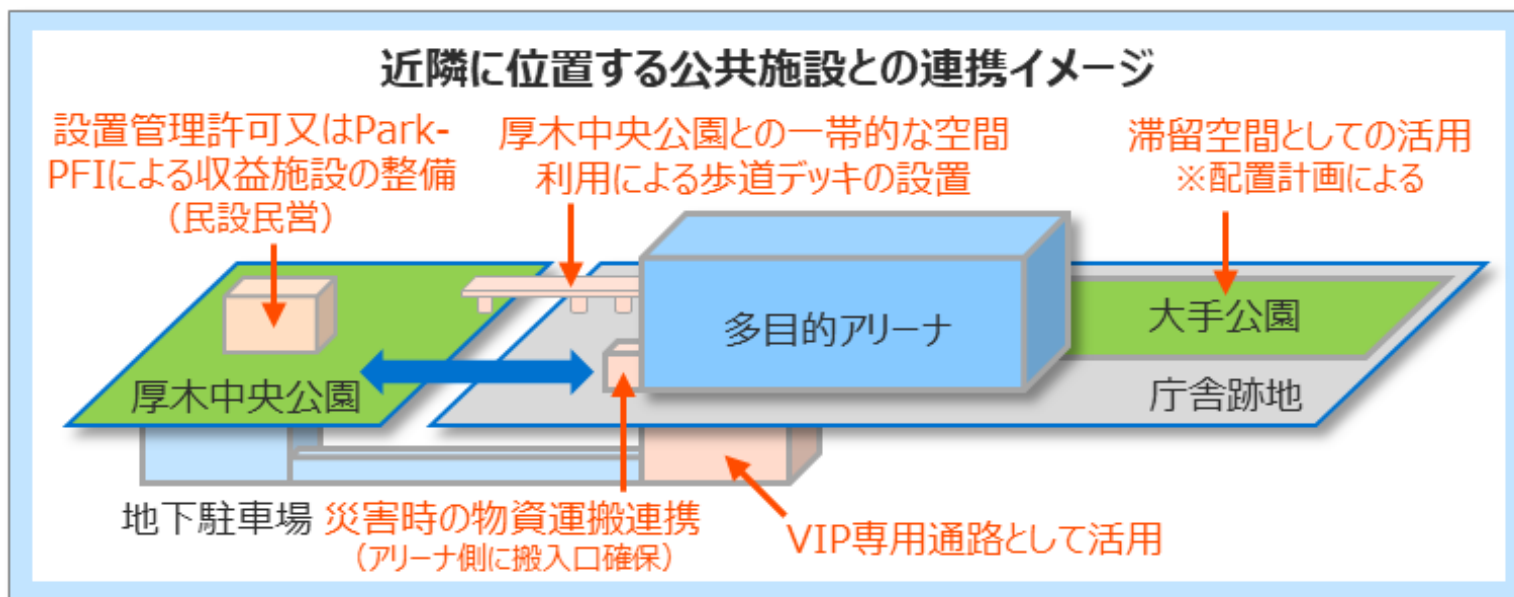
提案価格

PFI事業者の収支

7. 事業範囲

厚木中央公園等に係る連携の方向性について

- 多目的アリーナは集客機能を有するものであり、対象地の敷地内だけでなく、その周辺エリアも含めることで、日常時の賑わい創出又は災害時の防災機能の強化等、周辺エリア一帯の価値を向上させることが期待できます。
- 具体的には、今後の検討によりますが、次の図に示す連携イメージのように、複数の事業手法を組み合わせることにより、収益施設の整備、動線の利便性を高めることによる一帯的な空間利用、災害時の動線確保、VIP動線の確保等、多目的アリーナと周辺エリアにある公共施設のシナジー効果が期待できる連携方法が想定されます。



※上記の連携イメージ図は、多目的アリーナと周辺エリアにある公共施設のシナジー効果を高めるための連携方法を検討するために作成したものであり、Park-PFIや歩道デッキの設置等の記載内容は確定したものではありません。

参考 | 厚木中央公園等イベントとの連携について

- 厚木中央公園や厚木公園で開催されている市イベントは、市独自のコンテンツとして毎年多くの来場者を集め、まちのにぎわいを創出しています。
- 今後、多目的アリーナと連携することで、天候に左右されず、より快適で魅力的なイベントを実現し、新たな交流拠点としての可能性を検討します。

月	主なイベント	概要	概算来場者数
5月	厚木市緑のまつり（2日間）	ステージでの音楽演奏やダンス、子供向けイベント	32,000人
5月	HAPPY OUTSIDE BEAMS	モルックを中心とした野外イベント	3,000人
6月	建設フェスタ	建設業を知る！見る！楽しむ！イベント	3,000人
8月	鮎まつり（2日間）	市最大のイベント。1万発の大花火大会	330,000人
8月	厚木北地区盆踊り大会	厚木北地区の自治会合同による大盆踊り大会	3,000人
8月	あつぎジャズナイト（2日間）	日産や米軍のジャズバンドが出演（厚木公園）	5,000人
9月	あつぎDREAMフェスタ	青年会議所主催の音楽やグルメ等のイベント	3,000人
9月	あつぎアーバンスポーツフェスティバル	BMXやスケボーの体験会。オリンピックも参加	3,000人
10月	厚木オクトーバーフェスト（10日間）	地ビールの祭典。地元サントガーレンも出展	30,000人
11月	あつぎミュージックフェスティバル	市が誇る音楽の祭典。有名アーティストも参加	5,000人
11月	にぎわい爆発あつぎ国際大道芸（2日間）	雑技団など多数の芸人が全国から集結	100,000人
11月	あつぎウインターミネーション（～1月）	点灯式でフラダンスやコンサート（厚木公園）	3,000人

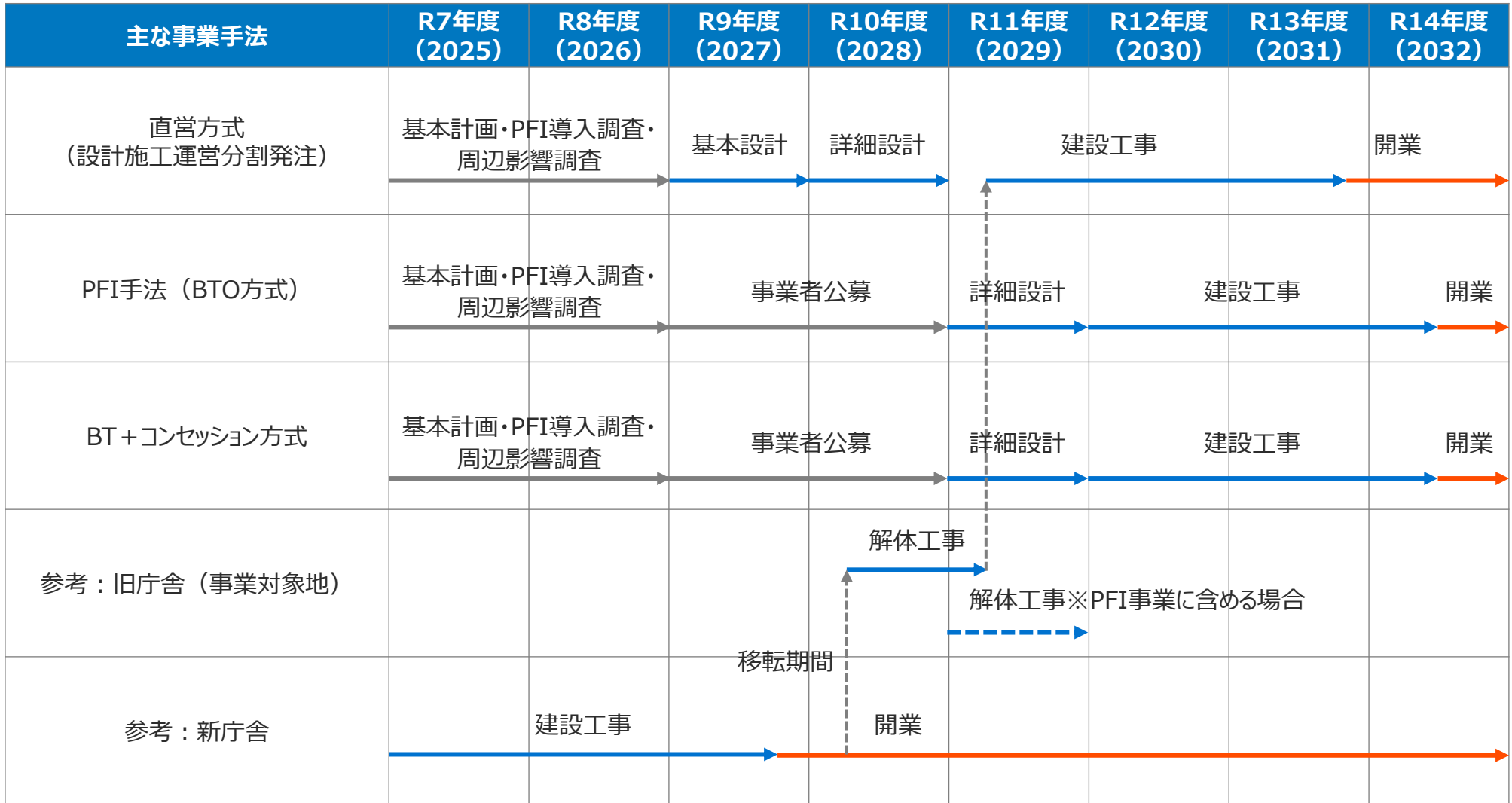
参考 | 厚木中央公園等イベントとの連携について



8. 事業スケジュール

(1) 事業スケジュール

- 各事業手法別に、現時点で以下のスケジュールを想定しています。



參考資料

事業対象地の立地環境 | 本市の位置

- 本市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、相模原市、座間市、海老名市、寒川町、平塚市、伊勢原市、秦野市、清川村、愛川町の6市2町1村に接しています。
- 東京から50km圏内であることに加え、東名高速道路を始め、国道246号、国道129号、国道412号、小田原厚木道路、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、新東名高速道路等が整備され、首都圏における道路交通の結節点としての地理的特性も備えています。

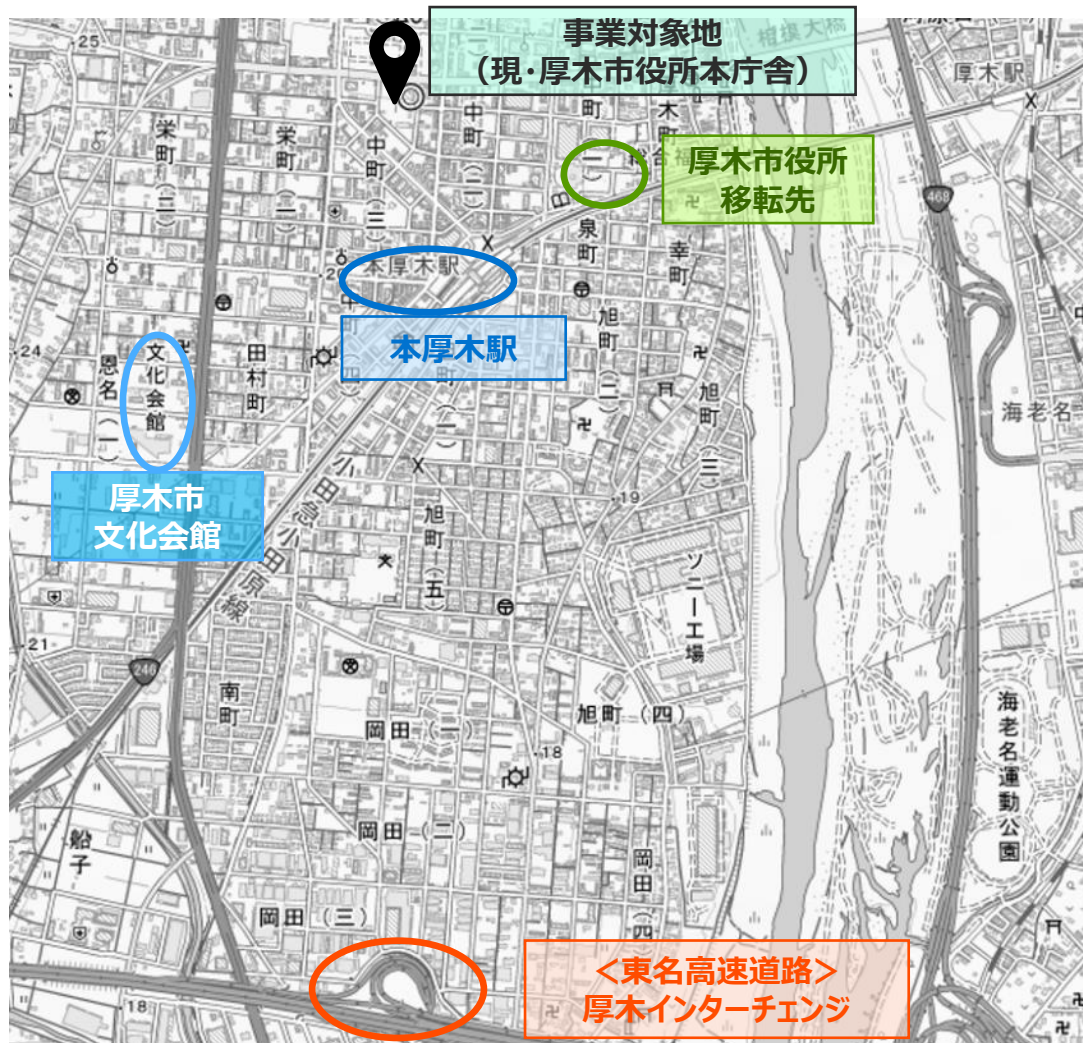


図 本市の位置

事業対象地の立地環境 | アクセス

- 事業対象地（現・厚木市役所本庁舎）は小田急小田原線本厚木駅から約700m（徒歩8分）の距離にあり、東名高速道路厚木インターチェンジからも車で10分とアクセス性にも優れています。

事業対象地周辺の立地環境



本施設への交通アクセス（広域図は次頁）



- 小田急小田原線本厚木駅から徒歩 8 分



- 東名高速道路厚木インターチェンジから自動車約10分（6 km）
- 首都圏中央連絡自動車道圏央厚木インターチェンジから約20分（6.5km）
- 首都圏中央連絡自動車道厚木PAスマートインターチェンジから約15分（6.5km）
- 新東名高速道路厚木南インターチェンジから約30分（16km）
- 小田原厚木道路厚木西インターチェンジから約15分（4km）

出所：国土地理院HP、[厚木市役所へのアクセス・開庁時間・閉庁日](#)／厚木市

事業対象地の立地環境 | アクセス（広域図）

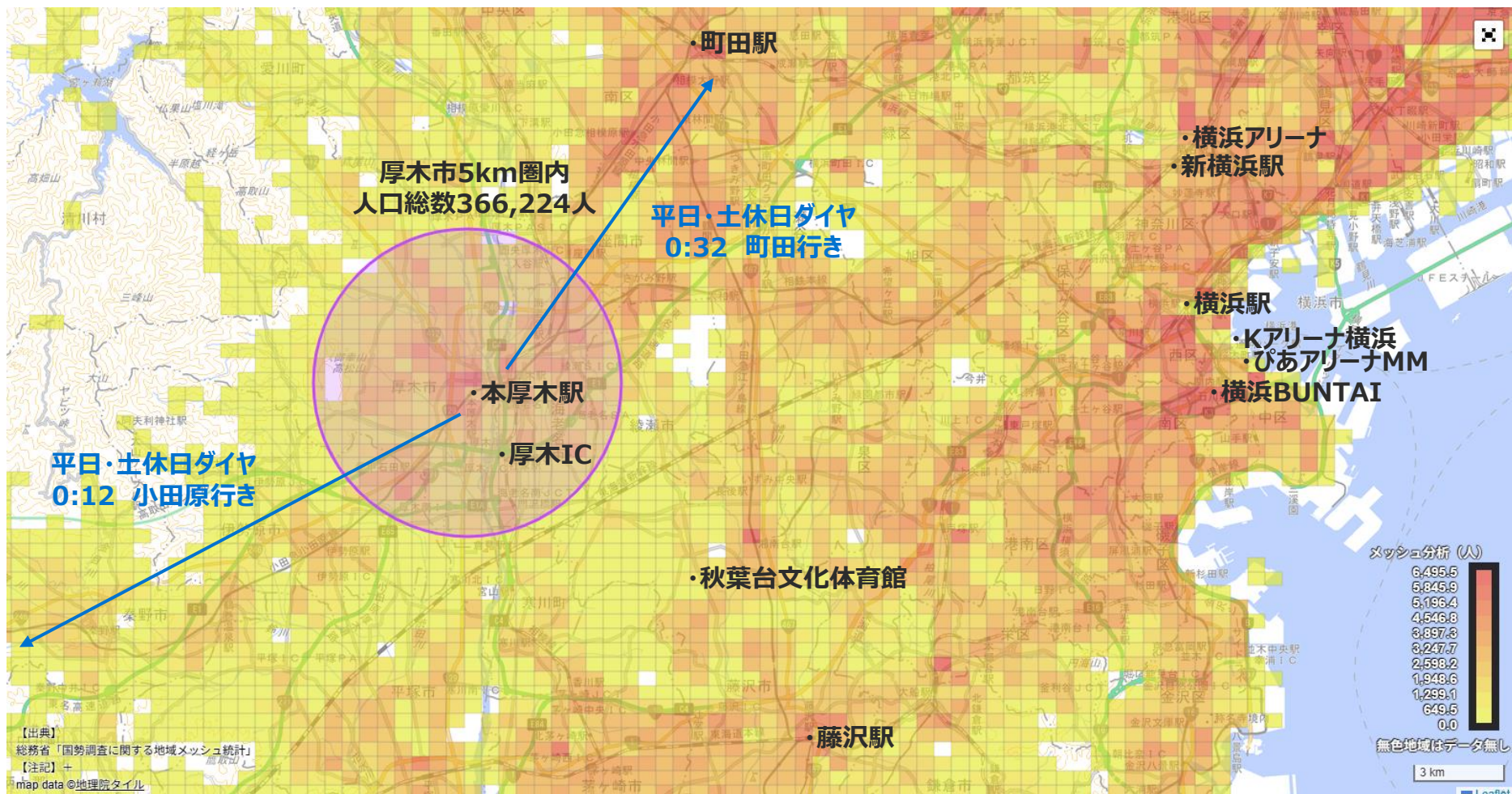


出所：国土地理院HP

周辺のアリーナ情勢と厚木市の立地

- 首都圏はアリーナ施設が供給過多になっているものの、神奈川県の中核・県西エリアはアリーナ施設がなく、本市にアリーナを整備した場合、当該エリアの圏をターゲットにできる可能性があります。
- 本厚木駅は、小田原線の中では7番目※（127,031人）に1日平均乗降人員が多い駅です。

※2024年度データ：小田急公式ホームページより



出所：地域人口500mメッシュ分析RESAS

参考：小田急線沿線のアリーナ情勢

- 小田急線沿線においても、本事業で整備が想定される規模と同等のアリーナは少ないため、本市にアリーナを整備した場合、沿線住民の集客につながる可能性があります。

小田急線沿線の主なアリーナ（体育館）

施設名	所在地	最寄り駅・アクセス	メインアリーナ面積	観客席数
相模原ギオンアリーナ (相模原市立総合体育館)	相模原市	相模大野駅から バスで20分	2,214㎡	1,598席（車いす席16席を含む）
海老名運動公園総合体育館	海老名市	厚木駅から 徒歩15分	2,100㎡	1,500席（固定1000席、可動500席）
小田原アリーナ	小田原市	富水駅・蛍田駅から 徒歩15分	3,400㎡	3,548席
メタックス体育館はだの (秦野市総合体育館)	秦野市	秦野駅から バスで20分	2,193㎡	1,944席（固定768席、可動1,176席）
伊勢原市総合運動公園体育館	伊勢原市	伊勢原駅から バスで15分	2,100㎡	776席（固定席のみ）
秋葉台文化体育館	藤沢市	湘南台駅から バス＋徒歩で15分	2,093㎡	3,000席（固定2,000席、可動1,000席）
秩父宮記念体育館	藤沢市	藤沢駅から バスで5分	1,789㎡	787席（車いす席6席を含む）
大和スポーツセンター第1体育室	大和市	大和駅から 徒歩9分	2,160㎡	2,152席（固定1,200席、可動952席）

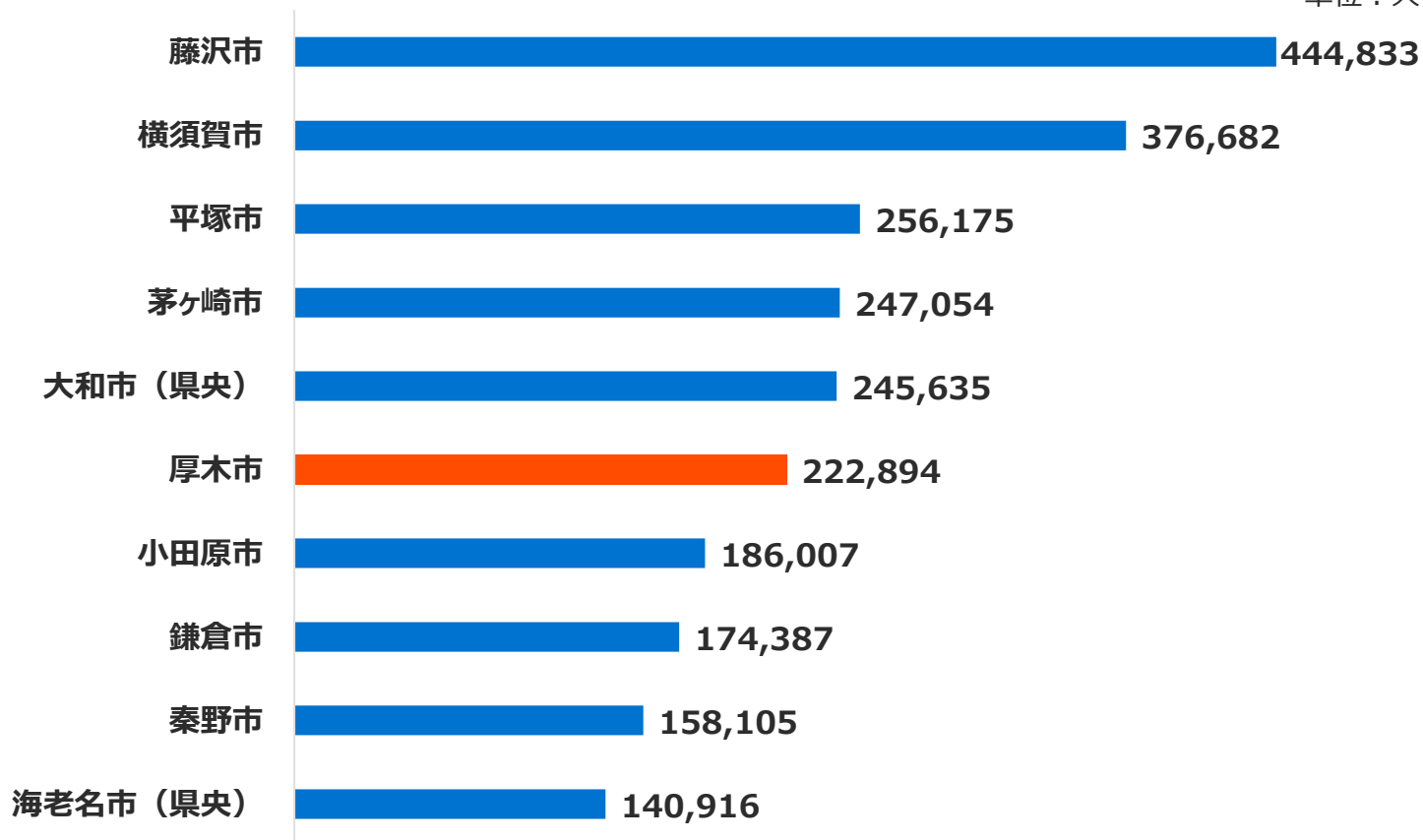
出所：各施設HPより日本総研作成

事業対象地の立地環境 | 本市の人口

- 本市の人口は2025年4月時点で222,894人となっており、神奈川県においては第6位（政令市を除く）、県央地域においては大和市に次ぐ第2位の人口規模を持ちます。

神奈川県内の人口上位10自治体（2025年4月時点/政令市は除く）

単位：人

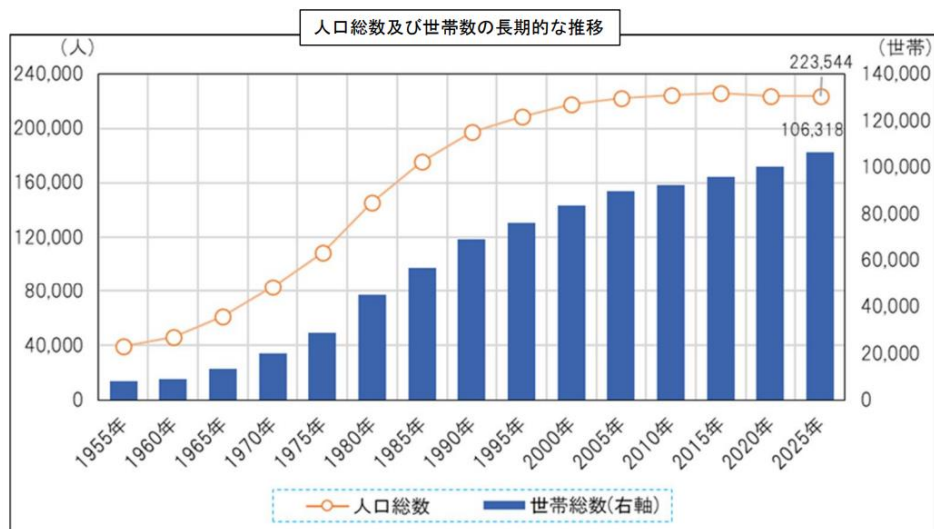


出所：公益財団法人国土地理協会データより日本総研作成

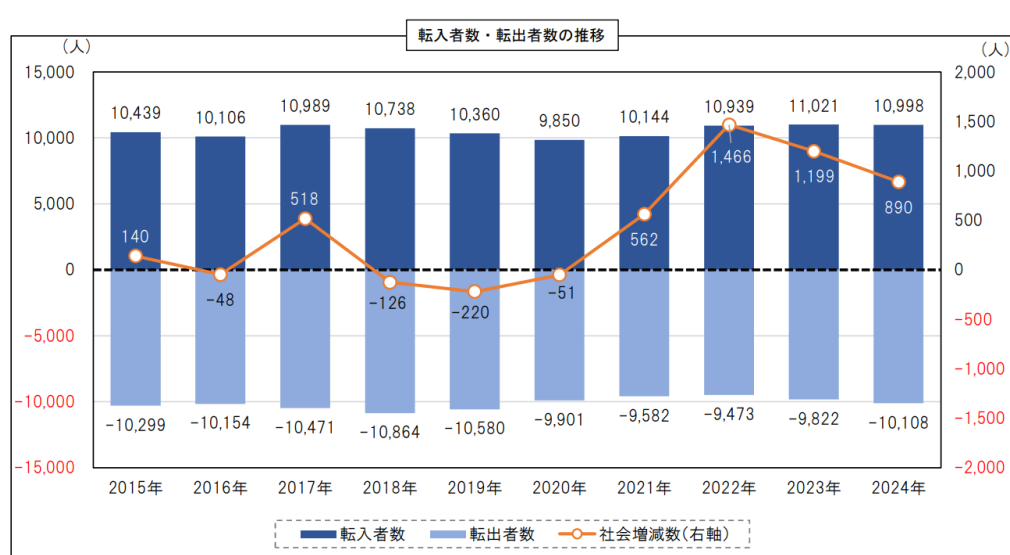
事業対象地の立地環境 | 本市の人口推移

- 本市の人口は2020年以降減少に転じていますが、減少幅は緩やかです。
- 2021年以降、転入者数が転出者数を上回る「転入超過」の状態が継続していることが一因と考えられます。

本市の人口推移



本市の転出入者数の推移



出所：厚木市人口ビジョン（原案）概要版

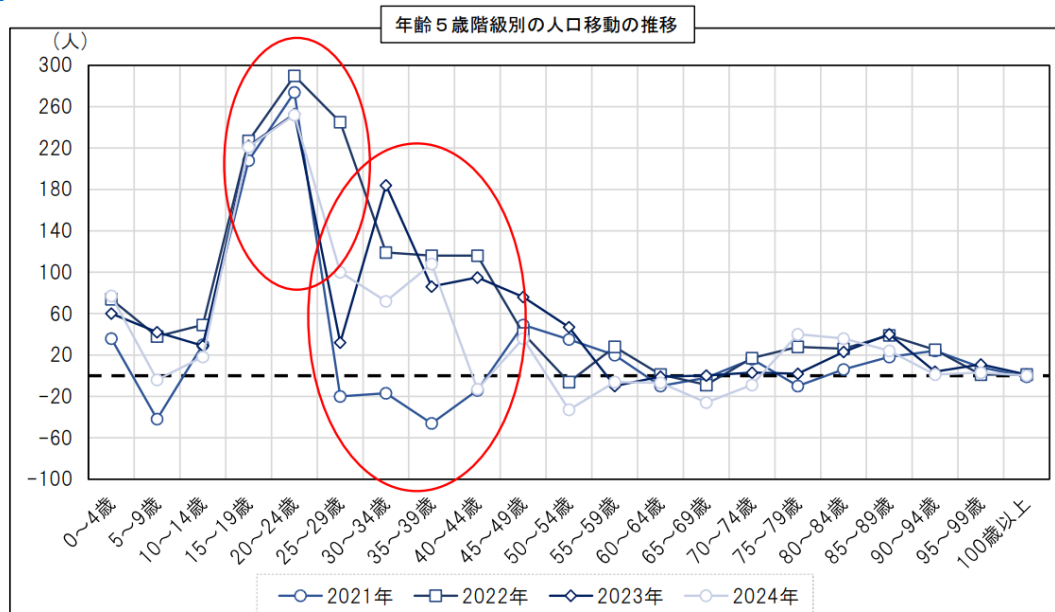
事業対象地の立地環境 | 本市が力を入れる取組（子育て支援）

- 本市は最も力を入れる施策の一つとして「子育て支援」を掲げており、18歳までの医療費や小中学校の給食費が無料であるほか、「紙おむつなどの宅配」（市が0歳児のいる家庭に紙おむつやお尻ふきを無料で届けるサービスで、第1・2子は12カ月間、第3子以降は2歳まで利用できる）といった独自の取組も実施しています。
- そのほか、市内の幼稚園に在園していれば、朝や夜などの園の保育時間外に本厚木駅近くの施設に子供を預け、園への送迎も行う「送迎ステーション」を安価に利用できるサービスなども展開しています。
- 上記も一因として、本市においては、（子育て世代の）20歳代・30歳代の転入超過が顕著となっています。

本市の子育てサービスに関するパンフレット



年齢別の人口移動の推移

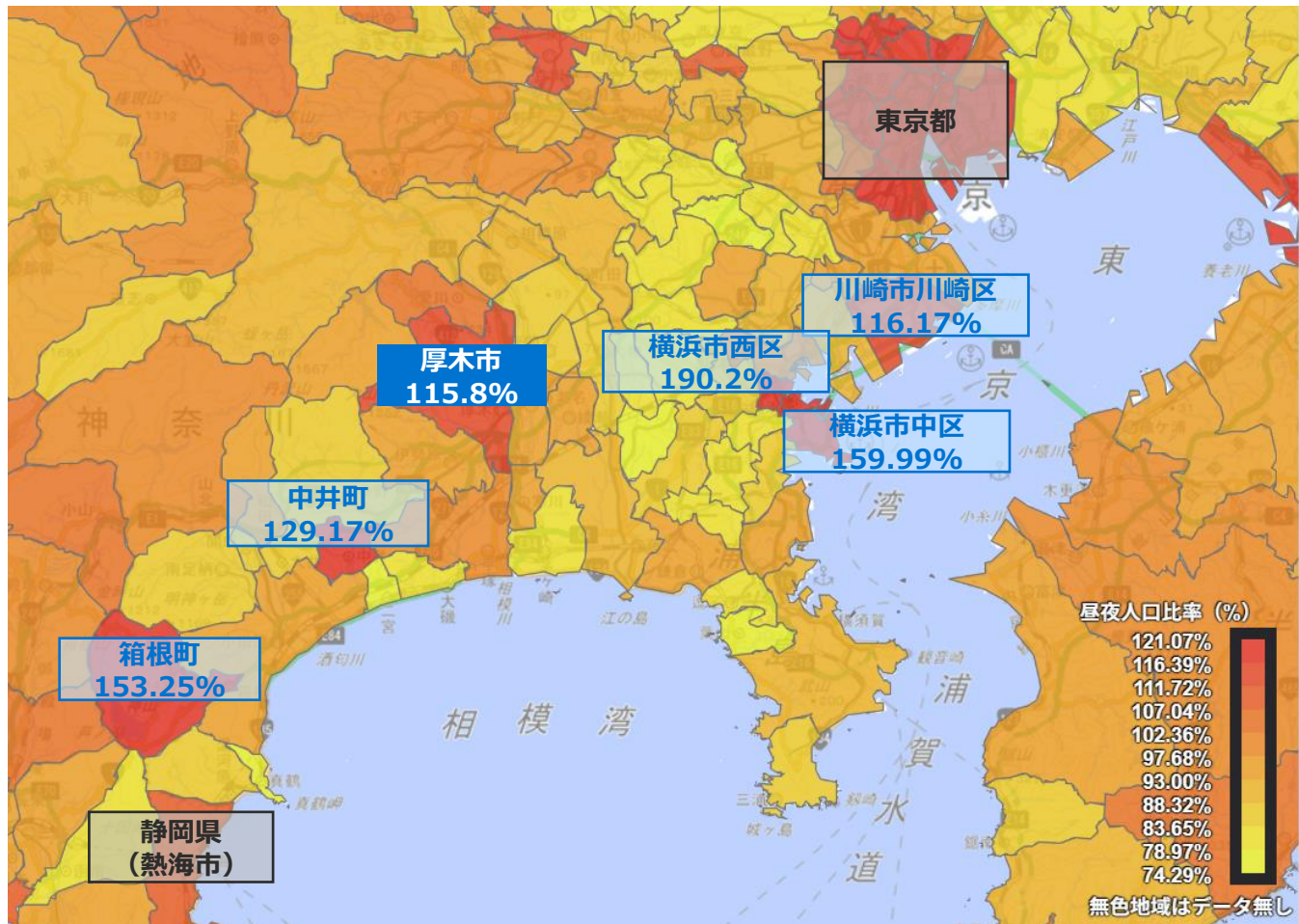


出所：「子育て・教育で選ばれるまち」へ 厚木市の手厚い支援策に市民は高い評価 市制70周年の取り組み ④ - 産経ニュース
 厚木市の子育てサービス/厚木市
 厚木市人口ビジョン（原案）概要版

事業対象地の立地環境 | 本市の昼夜間人口比率

- 本市の昼夜間人口比率は115.8%となっており、人口が流入超過となっています。

神奈川県内の昼夜間人口比率



昼夜間人口比率：

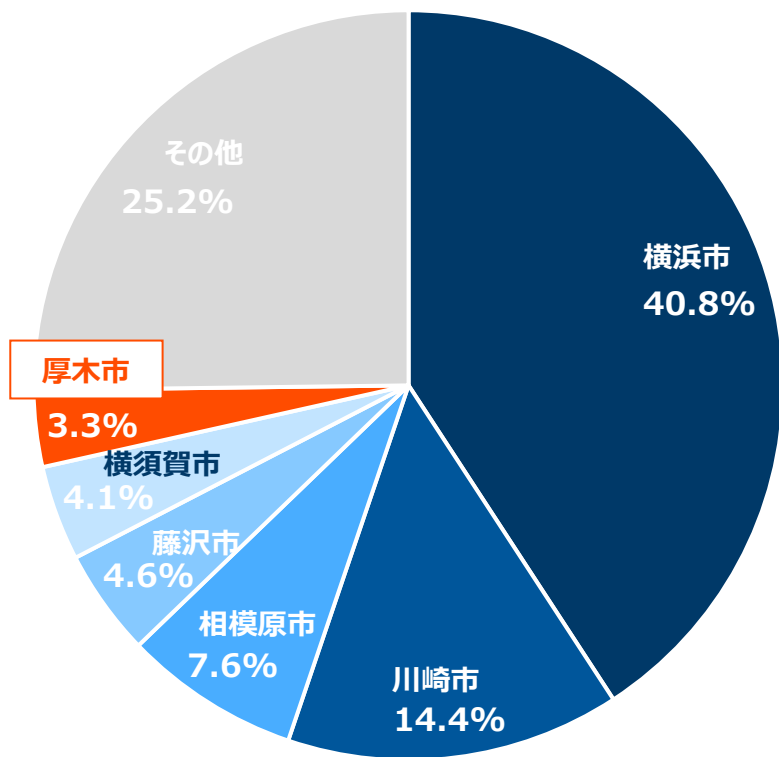
- 常住人口（夜間人口）100人当たりの昼間人口の割合。
- 100を超えているときは人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示す。

出所：通勤通学人口分析 - RESAS 地域経済分析システム

事業対象地の立地環境 | 本市の事業所数及び従業者数

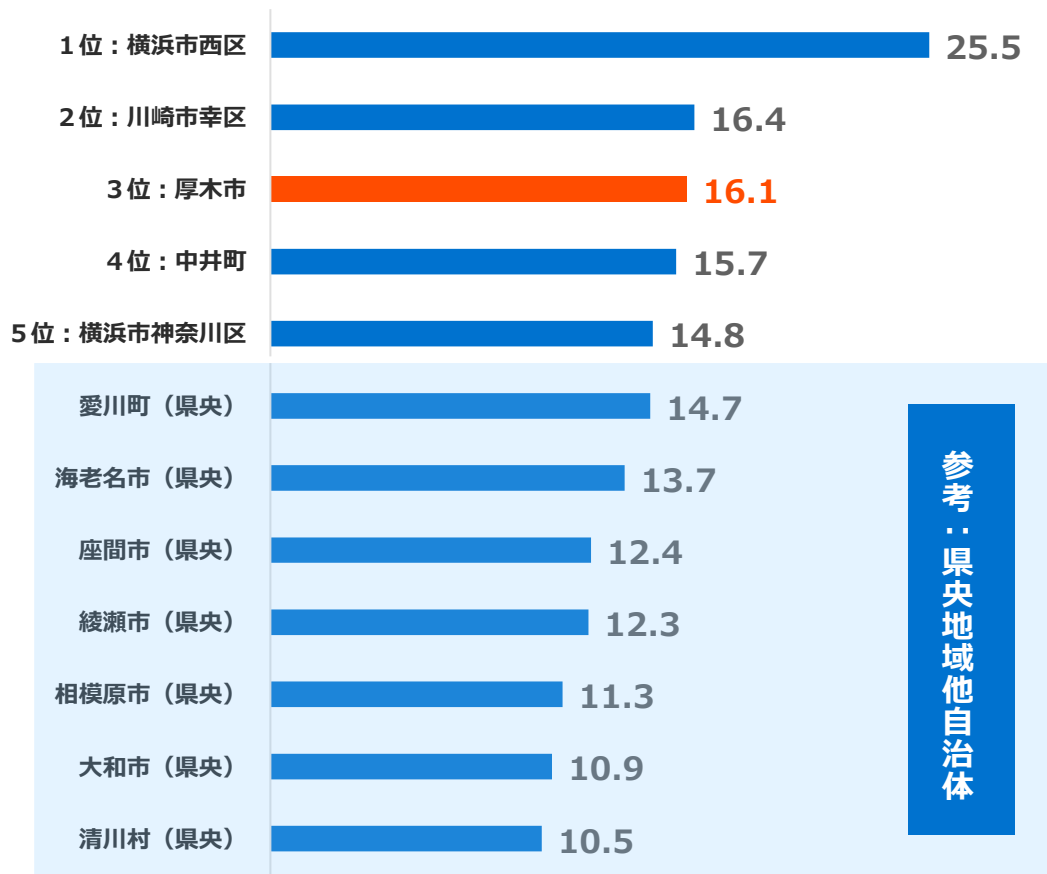
- 本市は神奈川県内にある事業所のうち、約3%が立地しています（県内第6位）。
- また、県内の1事業所当たりの従業員数は県内3位となっており、周辺と比較して、本市が事業所数や従業員数において優位にあることがうかがえます。

神奈川県内の事業所数の割合



神奈川県内の1事業所当たりの従業員

(単位：人)



参考：県央地域他自治体

出所：令和3年経済センサス-活動調査 産業横断的集計 結果の概要 (神奈川県確報結果)

事業対象地の立地環境 | 本市の産業及び企業・大学の立地

- 本市は研究開発型の製造業（自動車・電機・精密）が盛んであり、大手5社（Astemo、アンリツ、ソニー、日産、リコー）をはじめとする、企業の研究開発拠点や理工系大学の立地も多くなっています。

本市内にある大手企業の拠点や大学（一部）

Astemo（厚木第一・第二工場）



アンリツ（本社）



ソニー（厚木テクノロジーセンター）



日産自動車（先進技術開発センター）



リコー（厚木事業所）



神奈川工科大学



出所：厚木市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）、各社等HPより日本総研作成

事業対象地の立地環境 | 本市の観光資源 (1/2)

- 本市には、あつぎ温泉郷や自然・ハイキングを楽しめる公園、著名なゴルフ場など、多様な観光資源が存在しています。

本市の観光資源の例

あつぎ温泉郷



本厚木カンツリークラブ



多様な収穫体験アクティビティ (一部)

収穫体験



ツリークロスアドベンチャー



景勝・眺望 (一部)

景勝・眺望など



東丹沢グリーンパーク



出所：[厚木市観光協会「あつぎ観光ナビ」](#)
[本厚木カンツリークラブ](#) [公式]

事業対象地の立地環境 | 本市の観光資源 (2/2)

- 本市では、30万人以上の来場者があるあつき鮎祭りをはじめとする、多くのイベントが四季を通じて開催されています。

本市において開催されているイベントの例

あつき飯山桜まつり (3月～4月)



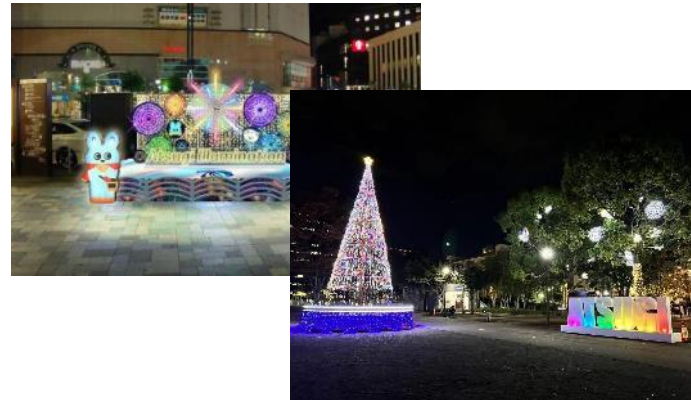
あつき鮎まつり (8月)



にぎわい爆発あつき国際大道芸 (11月)



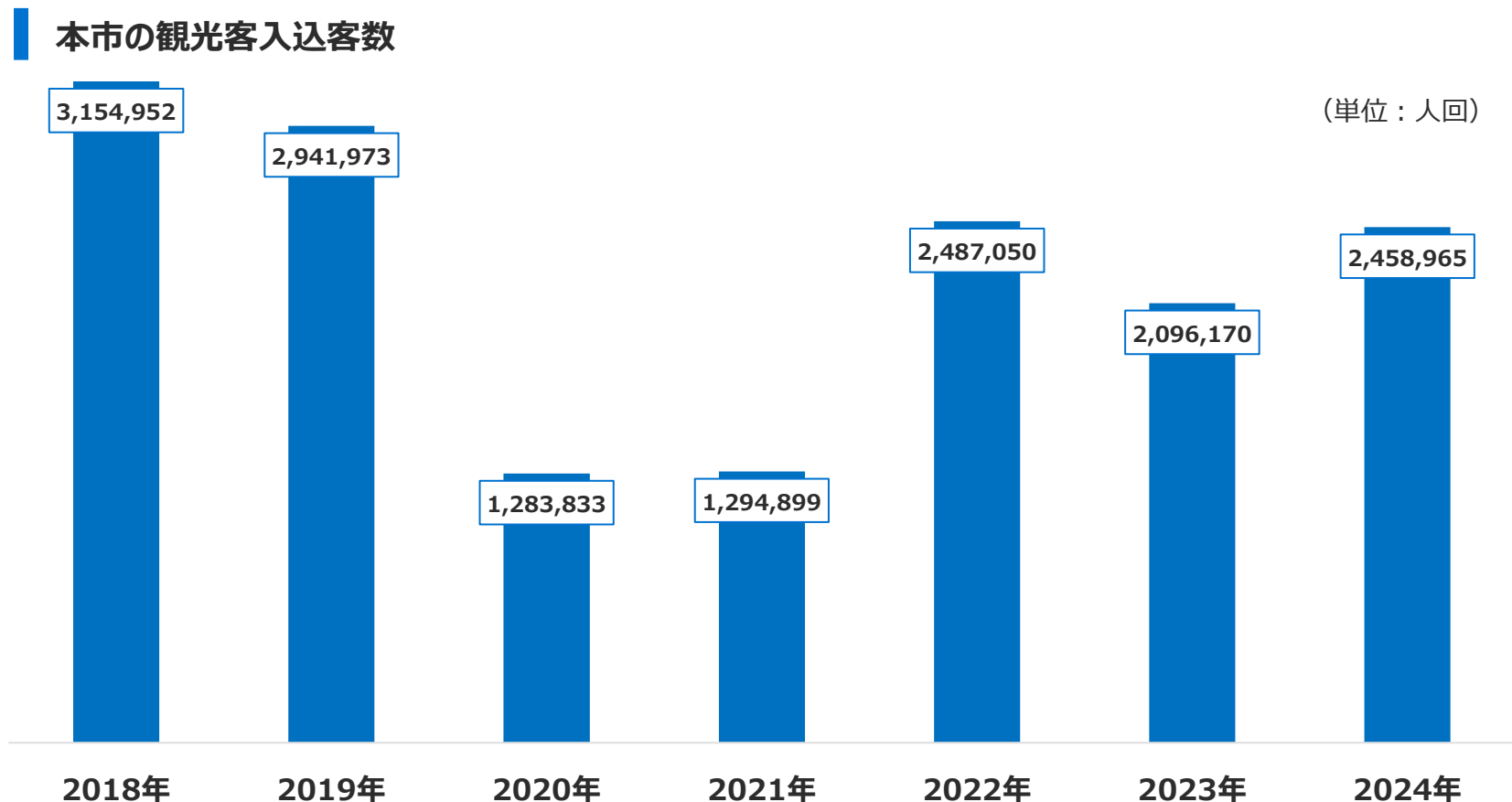
あつきイルミネーション (10月～1月)



出所：厚木市観光協会「あつき観光ナビ」
【8月2日・3日】「第79回あつき鮎まつり」開催／厚木市

事業対象地の立地環境 | 本市の観光入込客数

- 本市の観光入込客数（対象地域の「観光地点」や行祭事・イベントを訪れた観光客の「延べ人数」（同じ人が複数回訪れば、その回数分カウント））は新型コロナ以後回復傾向にあり、2024年には概ねコロナ前の水準を回復しています。



出所：【毎年4月更新】厚木市入込観光客調査

事業対象地の立地環境 | 宿泊施設の状況

- 本市にはあつぎ温泉郷に複数の旅館が立地しています。
- また、事業対象地に近い本厚木駅には、多数のビジネスホテルが存在しています。

本市の宿泊施設

あつぎの湯宿



あつぎの湯宿(あつぎ温泉郷)



元湯旅館



七沢荘



七扇(旧盛幸苑)



中屋旅館



元湯玉川館



福元館



広沢寺温泉 玉翠楼



かぶと湯温泉 山水楼

ホテル[本厚木駅周辺]



ホテルマイステイズ厚木



3S HOTEL ATSUGI



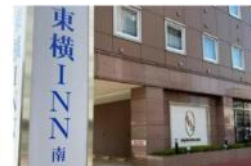
レンブラントスタイル本厚木



レンブラントホテル厚木



厚木アーバンホテル



東横INN本厚木駅南口



小田急ステーションホテル本厚木



旅館さがみ



ATSUGI HOTEL YUGIRI



ホテルビスタ厚木



厚木シティホテル



アーバンホテル厚木

出所：あつぎ温泉郷(飯山・七沢) - 厚木市観光協会 あつぎ観光ナビ

本市の関連計画 | 第11次厚木市総合計画

- 総合計画とは、本市における行財政運営を総合的かつ計画的に進めるための最上位計画です。
- 第11次厚木市総合計画は、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間を計画期間とし、本市の将来都市像とその実現に向けたまちづくりの目標などを定めています。
- 本事業は、第11次厚木市総合計画において「重点プロジェクト」の取組に位置付けられています。「重点プロジェクト」とは、将来都市像や目標人口の実現を図るため、分野横断的に取組を推進するものです。

【将来都市像】

つながる未来都市-A-T-S-U-G-I-

【政策・施策】

Ambitious 子育て・教育		Together 福祉・健康・コミュニティ							Safe 安心・安全			Unique 都市整備・産業				Green 環境		Inspire スポーツ・文化芸術・魅力									
01 子育て	02 学校教育	03 地域福祉	04 高齢者福祉	05 障がい者福祉	06 保健・医療	07 社会教育	08 市民協働	09 生涯学習	10 人権・平和	11 防災・減災	12 消防・救急	13 防犯	14 交通安全	15 都市・交通	16 道路	17 基盤整備	18 公園・緑地	19 産業・労働	20 商業	21 農業	22 温暖化対策	23 循環型社会	24 自然・生活環境	25 スポーツ	26 文化芸術	27 観光	28 魅力発信

【重点プロジェクト】

- 戦略1（住みたいまち）
- 戦略2（育てたいまち）
- 戦略3（働きたいまち）

戦略1 （住みたいまち）

厚木の魅力を伸ばし、住みたい住み続けたいまちをつくる

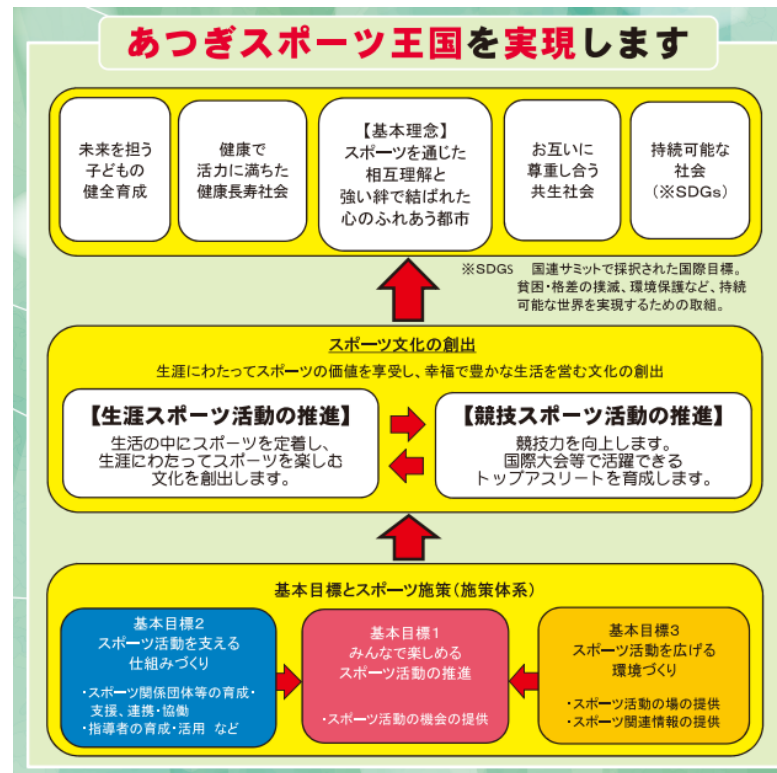
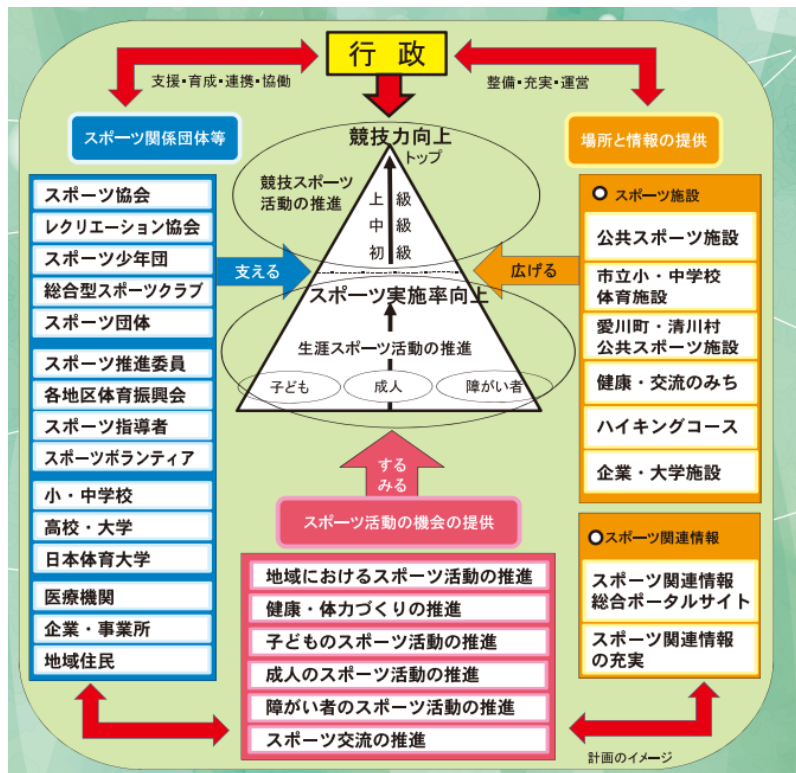
魅力あるまちとは、誰もが訪れたい、住みたい、住み続けたいと思えるまちであると考えます。本市の玄関口となる中心市街地等を核とした新たな人の流れを生み出す空間づくりや、訪れるたびに新たな発見がある場の創出、地域がつながり合い、いつまでも穏やかに暮らし続けられる環境づくりにより、住む人が誇りを持てる魅力あるまちをつくりまします。

【重点テーマ】

- 新たな人の流れを生み出すまちづくり
 - 本厚木駅北口周辺の一体的かつデザイン・機能性に優れた街並みへの再整備
 - 本庁舎敷地跡地の活用による中心市街地の活性化
 - 心地よい時間を過ごせるエリアを目指した愛甲石田駅周辺の整備
 - 交通利便性の高い広域的な道路網の整備
- 新たな発見がある魅力的なまちづくり
 - スポーツ、文化芸術、歴史など新たな発見や感動を得られる環境づくり
 - 観光や自然環境など地域に根差した資源を活用した取組の推進
 - 広域的な課題の解決を図る取組の推進
 - SNSなどの多様な情報発信ツールを活用した魅力発信体制の確立
- 穏やかに暮らせる安心・安全な環境づくり
 - 災害による被害を最小限に抑える防災・減災対策の充実
 - 犯罪を起こさせない環境づくりによる安心して暮らせるまちの実現
- つながり支え合う地域づくり
 - 健康で自分らしく暮らし続けることができる地域社会の実現
 - 市民と協働による地域課題の解決

本市の関連計画 | 第2次厚木市スポーツ推進計画

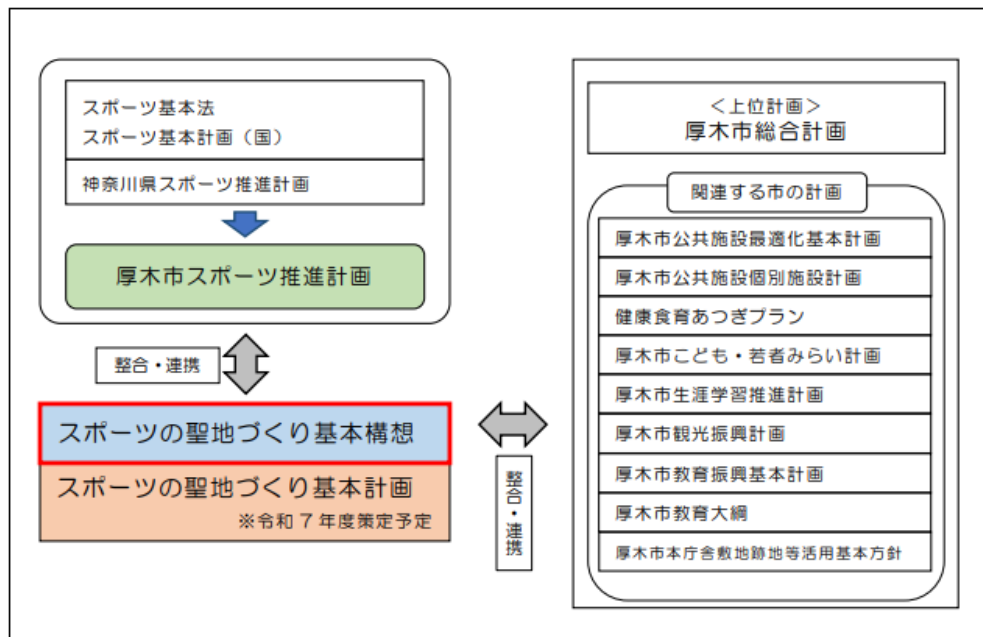
- 第10次厚木市総合計画及び第2次厚木市教育振興基本計画に掲げる目標を実現するための、具体的な取組等を定めた個別計画として策定されました。
- スポーツ活動を「する・みる」「支える」「広げる」の観点から3つの基本目標を定めており、スポーツ施設については「基本目標3 スポーツ活動を広げる環境づくり」において、「スポーツ施設の整備・充実」が施策として定められています。



出所：第2次厚木市スポーツ推進計画

本市の関連計画 | スポーツの聖地づくり基本構想（案）

- 本市は様々なスポーツ施設が各地区に点在していることに加え、老朽化している施設が多数あること、市内の多くの施設は、施設内設備やグラウンドの広さが不十分などを理由にトップアスリートやトップリーグの大会等が開催できない状況となっています。
- 上記を踏まえ、「スポーツを身近に感じられる環境づくり」に向けた、スポーツ環境の整備を推進することを目的とし、既存施設の再整備（集約）も含めた市全体の施設整備に関する基本的な構想を策定しました。
- 体育館については、「トップリーグや全国大会などの「みる」スポーツ施設として体育館等が期待されており、十分な観覧施設を有する施設の整備を検討」「具体的な取組として、新庁舎へ移転後、現在の市役所本庁舎敷地の跡地には、スポーツ・文化・音楽等の多彩な興行の実現に向けて、新たな公共機能を導入」することとしています。



(2) 体育館・武道場

(方針)

トップリーグや全国大会などの「みる」スポーツ施設として体育館等が期待されており、十分な観覧施設を有する施設の整備を検討します。具体的な取組として、新庁舎へ移転後、現在の市役所本庁舎敷地の跡地には、スポーツ・文化・音楽等の多彩な興行の実現に向けて、新たな公共機能を導入します。導入に当たっては、本厚木駅周辺の災害対応力の強化を図るため、大規模災害時における防災機能を確保します。

また、既存施設の計画的な改修を検討し、「する」スポーツとしての市民利用やスポーツ行事の会場として利用するために、適正な維持管理を行いつつ、快適な施設環境とするべくトレーニングなどの施設を含め機能の充実を図ります。

周辺のまちづくりの状況 | 中心市街地の状況

- 本市では、2012年に「中心市街地の全体構想」を策定し、「歩いて楽しいまち」をテーマにまちづくりを開始、2022年には全体構想を改訂する形で、「本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画～vision2040～」を策定しました。
- まち並みや人の流れがエリアごとに異なることに留意して「目指すまちの姿」を定めており、事業対象地周辺については、「みんなで使い・育む緑と暮らしの場」として厚木中央公園を核に、来街者や住民の多様な活動が共存する都市空間を形成する旨定めています。

本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画～vision2040～

魅力的なスポットの拡大

民間のアイデアと行動力を活かした公共空間の利活用や施設の充実により、魅力的な場所が増え、まち歩き範囲が広がります。

魅力的な店舗や施設の増加
限られた場所に歩行者が集中

都市基盤のリニューアル

結節点周辺のリニューアルにより、駅周辺が歩行者目線の都市空間に生まれ変わります。

施設の老朽化や歩行者空間の不足
リニューアルで、歩行者目線の都市空間へ

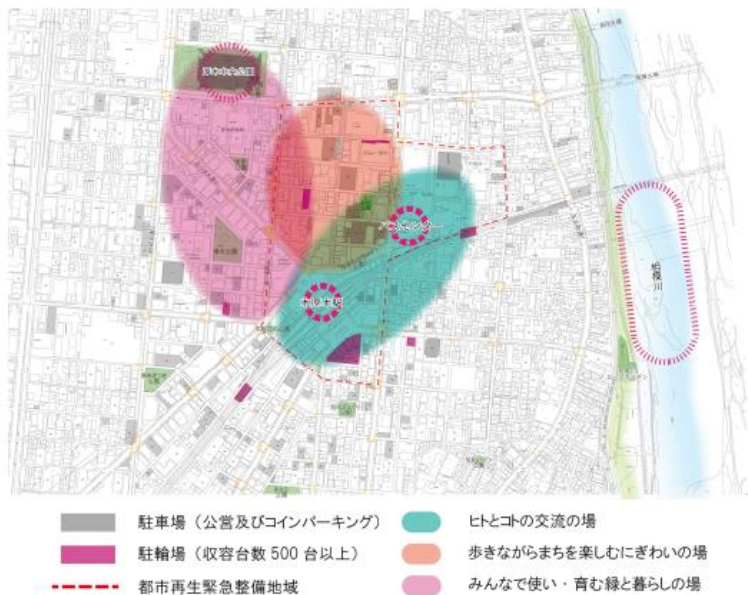
点在するまちの資源がつながり、歩いて楽しいまちへ

まち歩きの目的地となる大小様々なまちの資源（魅力や発見など）が歩行者目線でつながることで、歩いて楽しいまちとなります。

点在するまちの資源
まちの資源がつながり歩いて楽しいまちへ

3 エリア別の目指すまちの姿

本厚木駅周辺は、エリアによって、まち並みや人の流れなどが異なるため、土地利用の特徴、交通手段ごとの主要動線、公共空間の整備状況に着目し、より具体的な目指すまちの姿を定めます。



C. 活動のイメージ

- 誰もが日常的に行きたくなる居心地が良くまちに開かれた公園が、本厚木駅を訪れた人のまち歩きを誘発します。
- 公共空間は、沿道との連携や役割分担等により、まち歩きだけでなく自転車や自動車の通行、バスの乗降等の多様な活動を支えます。



出所：厚木市「本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画～vision2040～」

周辺のまちづくりの状況 | スポーツ施設の分布・利用状況

- 本市には、市営スポーツ施設が81施設、そのうち、体育館は4施設となっています。
- 施設の利用率について、体育館・武道館は64.9%（2023年度）と、市内施設の中では高位となっています。

〔表1〕地区別・類型別のスポーツ施設数

	野球場・球技場・競技場	体育館・武道場	テニスコート	公園グラウンド・テニスコート	青少年広場・スポーツ広場・グラウンドほか	スポーツ広場（住民管理）	青少年広場（住民管理）	その他広場	合計
厚木地区	1	1	1	0	2	1	1	0	7
依知地区	0	1	1	0	4	9	10	1	26
睦合地区	1	0	0	0	1	3	4	1	10
荻野地区	1	1	1	1	0	3	0	0	7
小鮎地区	0	0	1	1	2	1	4	0	9
南毛利地区	0	1	1	0	1	3	3	0	9
玉川地区	1	0	2	1	0	1	0	0	5
相川地区	0	0	0	0	3	1	2	2	8
合計	4	4	7	3	13	22	24	4	81

※複数種類の有するスポーツ施設は全ての類型を計上しています。
 ※スポーツ広場はネットやサッカーゴール等が整備された広場、青少年広場は地域住民の多様なスポーツ利用が可能な広場、その他広場は上記施設に含まれない市営の広場（分類は「あつぎのスポーツ」による）

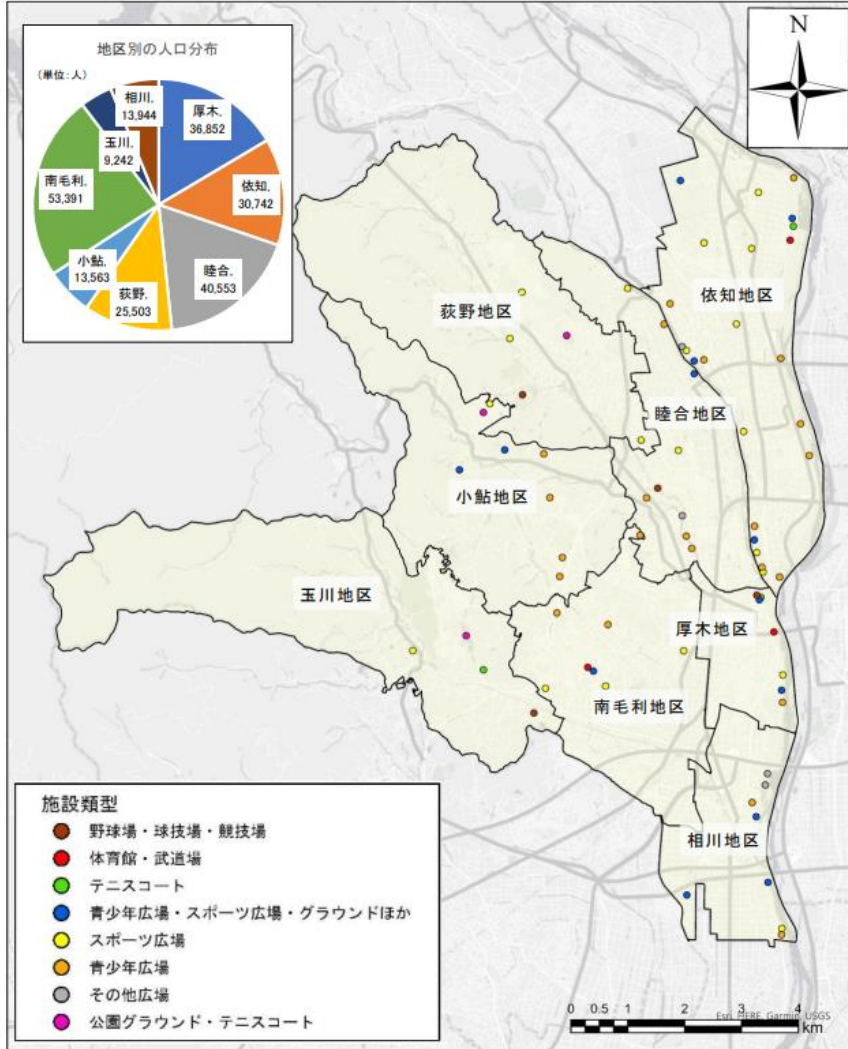
（4）施設の利用率 |

市内のスポーツ施設の類型別利用率は、体育館・武道場（64.9%）、テニスコート（66.6%）が6割を超えていますが、青少年広場・スポーツ広場・グラウンドほか（24.6%）は低くなっています。

〔表5〕施設類型別の利用率（令和5年度実績）

施設類型	利用率
野球場・球技場・競技場	40.5%
体育館・武道場	64.9%
テニスコート	66.6%
青少年広場・スポーツ広場・グラウンドほか	24.6%

※利用率＝（稼働時間／利用時間）
 ※一部施設は台風影響等により閉鎖されていたため令和4年実績値を掲載
 ※厚木市公共施設予約システムに対応している施設のみを対象としている



出所：厚木市「スポーツの聖地づくり基本構想（案）」

周辺のまちづくりの状況 | 本市に本拠地を置くスポーツチーム

- 本市を本拠地とする屋内スポーツチームとして、2025年4月にバレーボールクラブ「シズカバイキングス厚木」が発足し、Vリーグへの加入を目指しています。

シズカバイキングス厚木

チーム名	・ シズカバイキングス厚木
運営母体	・ 株式会社静科（防音材の製造・販売と防音工事・施工を手掛ける）
創設	・ 2025年（4月）
所属リーグ	・ なし（現在は天皇杯・皇后杯実業団予選や全日本6人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会などの大会に出場）
本拠地	・ 神奈川県厚木市（ホームアリーナはなし）



出所：【厚木市制70周年記念事業】元日本代表選手による中学生向けバレーボール教室を開催 | 株式会社静科のプレスリリース

周辺のまちづくりの状況 | 本市と関わりが深いスポーツチーム (1/2)

- 本市はバスケットボールチーム（湘南ユナイテッドBC）の特別パートナーになっています。
- また、ハンドボールチーム（ブルーサクヤ鹿児島）のホームゲームを開催する等、スポーツチームとの連携を積極的に進めています。

厚木市が特別パートナーとなっている湘南ユナイテッドBC

チーム名	・ 湘南ユナイテッドBC
運営母体	・ 株式会社湘南ユナイテッド藤沢
創設	・ 2020年
所属リーグ	・ Bリーグ（B3）
本拠地	・ 神奈川県藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町 ・ ホームアリーナは藤沢市秋葉台文化体育館
2024-25シーズンの成績	・ 11位（17チーム中）



特別パートナー



厚木市でホームゲームを開催しているブルーサクヤ鹿児島

チーム名	・ ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング ブルーサクヤ鹿児島
運営母体	・ ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
創設	・ 1984年
所属リーグ	・ リーグH
本拠地	・ 鹿児島県霧島市（霧島市国分体育館）
2024-25シーズンの成績	・ 優勝（11チーム中） ・ プレーオフも制して、初代女王



出所：各チームHP、[昨シーズンの報告と新シーズンに向け抱負](#) B3リーグ湘南ユナイテッドBCが表敬訪問／厚木市

周辺のまちづくりの状況 | 本市と関わりが深いスポーツチーム (2/2)

- そのほか、神奈川県を本拠地とする卓球チームである木下アビエル神奈川が、2026年3月にホームゲームを厚木市（荻野運動公園体育館）で開催することが決定しています。

木下アビエル神奈川

チーム名	• 木下アビエル神奈川
運営母体	• 株式会社木下テーブルテニスクラブ
創設	• 2018年
所属リーグ	• Tリーグ（女子）
本拠地	• 神奈川県
2024-25シーズンの成績	• 2位（6チーム中）




今、心ひとつに

HOME


2026
3.8
SUN. / 16:00

vs. トップおとめピンポン
ズ名古屋

厚木市荻野運動公園体育館



-



木下アビエル神奈川の公式戦開催に関する本市HP（一部抜粋）

8月17日（日曜日）、荻野運動公園メインアリーナで「木下テーブルテニスクラブトップアスリート卓球クリニック」を開催いたしました！

小学生から大人まで、115人にご参加いただき、技術指導やアドバイスを受けました。参加された皆様、大変お疲れ様でした。

また、運営に当たりご協力いただきました木下テーブルテニスクラブ（木下マイスター東京、木下アビエル神奈川）の皆様、誠にありがとうございました。

来年3月に、荻野運動公園でTリーグの公式戦が初めて開催される予定です。木下マイスター東京、木下アビエル神奈川の選手が出場しますので、この機会にぜひ会場で観戦してみませんか？

出所：[厚木市制70周年記念「木下テーブルテニスクラブ トップアスリート卓球クリニック」を開催しました！](#) / 厚木市木下アビエル神奈川 公式サイト